

2023年度 第2四半期 決算説明会資料

2023年11月17日

南海電気鉄道株式会社

(東証プライム市場 9044)



目次

I. 2023年度 第2四半期 決算概要	2
II. 2023年度 通期業績予想	18
III. 中期経営計画「共創140計画」の進捗状況	25
IV. サステナブル経営の取り組みについて	46
Appendix	52

I. 2023年度 第2四半期 決算概要

業績ハイライト

(単位:百万円)

	2023/2Q 実績 (A)	2022/2Q 実績 (B)	対2022/2Q実績		2023/2Q 期初予想 (2023年4月公表) (C)	対2023/2Q期初予想	
			増減額 (A-B)	増減率		増減額 (A-C)	増減率
営業収益	117,672	108,240	9,431	8.7%	119,400	△ 1,727	△ 1.4%
営業利益	14,237	9,446	4,791	50.7%	9,900	4,337	43.8%
営業外収益	974	854	120	14.1%			
営業外費用	1,944	2,085	△ 140	△ 6.7%			
経常利益	13,268	8,215	5,052	61.5%	8,900	4,368	49.1%
特別利益	156	390	△ 234	△ 60.0%			
特別損失	525	593	△ 68	△ 11.5%			
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,867	7,116	1,750	24.6%	6,300	2,567	40.8%

<主な増減理由:対2022/2Q実績>

運輸業における輸送人員の増加や不動産業におけるマンション販売の増加等により増収増益

<主な増減理由:対2023/2Q期初予想>

貨物運送業における取扱高の減少等により減収となった一方、不動産業におけるマンション販売の下期からの前倒しに加え、バス事業における輸送人員の回復等により増益

‘なんかいいね’があふれてる

セグメントの構成状況（2023年9月末現在）

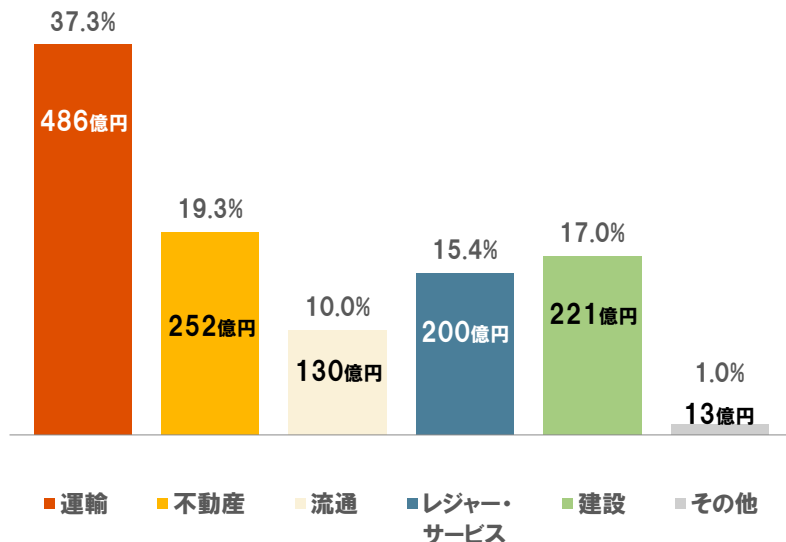
【連結子会社54社・非連結子会社17社・持分法非適用関連会社6社】

（対2023年3月末 増減なし）

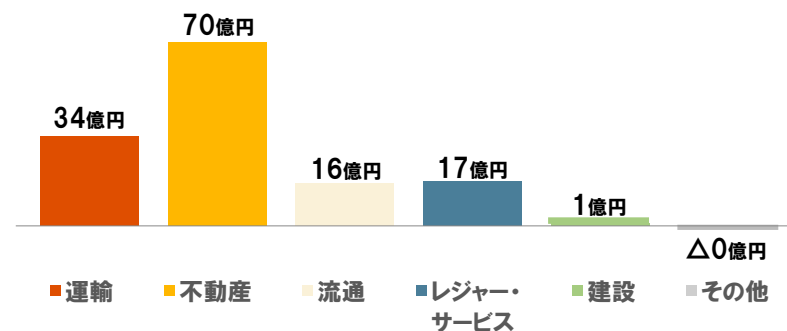


※当社は運輸業、不動産業、流通業、レジャー・サービス業に、泉北高速鉄道株式会社は運輸業と不動産業に重複して含まれております。

【セグメント別営業収益】



【セグメント別営業利益】

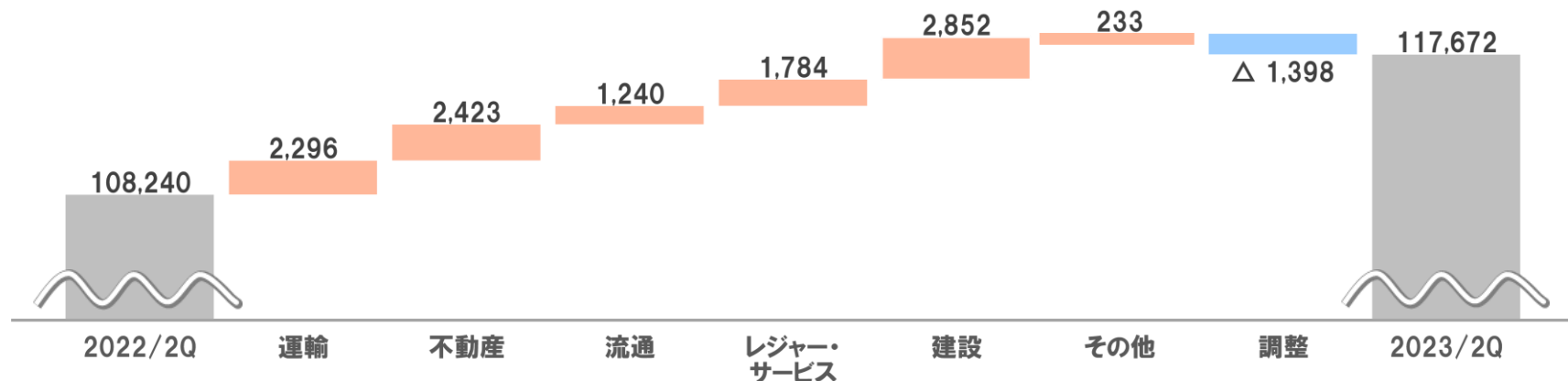


※ 構成比:セグメント間取引を含む営業収益に対する比率

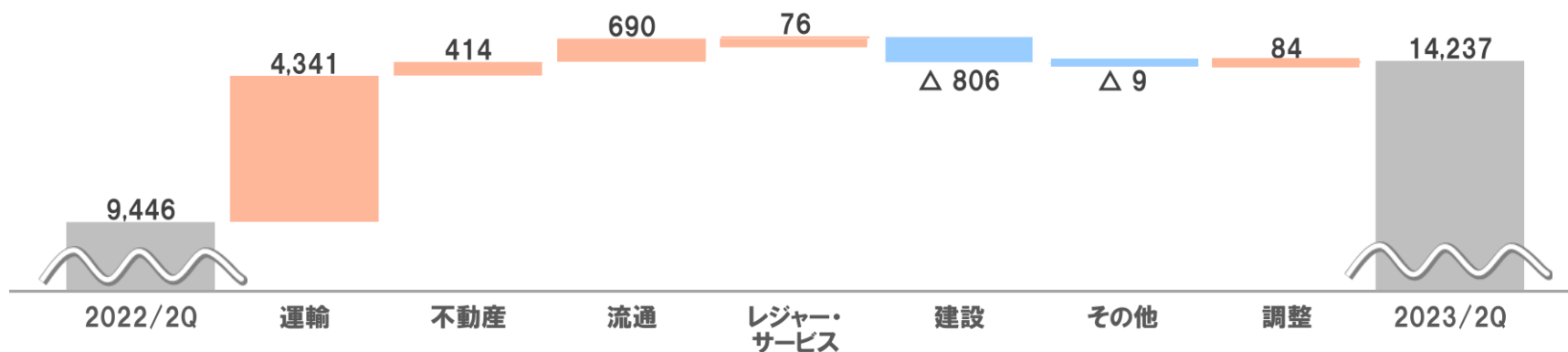
セグメント別営業収益・営業利益

① 営業収益の増減額（対2022/2Q比較）

（単位：百万円）



② 営業利益の増減額（対2022/2Q比較）



セグメント別営業収益・営業利益

(単位:百万円)

	営業収益				営業利益			
	2023/2Q 実績	2022/2Q 実績	増減額	増減率	2023/2Q 実績	2022/2Q 実績	増減額	増減率
運輸業	48,632	46,335	2,296	5.0%	3,456	△ 885	4,341	—
不動産業	25,218	22,794	2,423	10.6%	7,072	6,657	414	6.2%
流通業	13,064	11,824	1,240	10.5%	1,616	925	690	74.6%
レジャー・サービス業	20,097	18,312	1,784	9.7%	1,701	1,624	76	4.7%
建設業	22,172	19,319	2,852	14.8%	173	980	△ 806	△ 82.3%
その他の事業	1,313	1,080	233	21.6%	△ 58	△ 49	△ 9	—
調整額	△ 12,826	△ 11,427	—	—	276	192	—	—
合計	117,672	108,240	9,431	8.7%	14,237	9,446	4,791	50.7%

セグメント情報(運輸業)

(単位:百万円)

運輸業	2023/2Q 実績	2022/2Q 実績	増減額	増減率
営業収益	48,632	46,335	2,296	5.0%
鉄道事業	30,999	26,500	4,498	17.0%
バス事業	11,536	8,982	2,553	28.4%
その他の運輸業	9,389	13,870	△ 4,480	△ 32.3%
調整額(セグメント内)	△ 3,293	△ 3,018	—	—
営業利益	3,456	△ 885	4,341	—
主な内訳				
鉄道事業	2,472	△ 400	2,872	—
バス事業	1,031	△ 790	1,822	—

<主な増減理由>

・貨物運送業における減収があったものの、鉄道事業やバス事業において前年同期と比べ輸送人員が増加したこと等により増収増益

‘なんかいいね’があふれてる

鉄道旅客収入及び輸送人員表(個別)

(単位:百万円・千人)

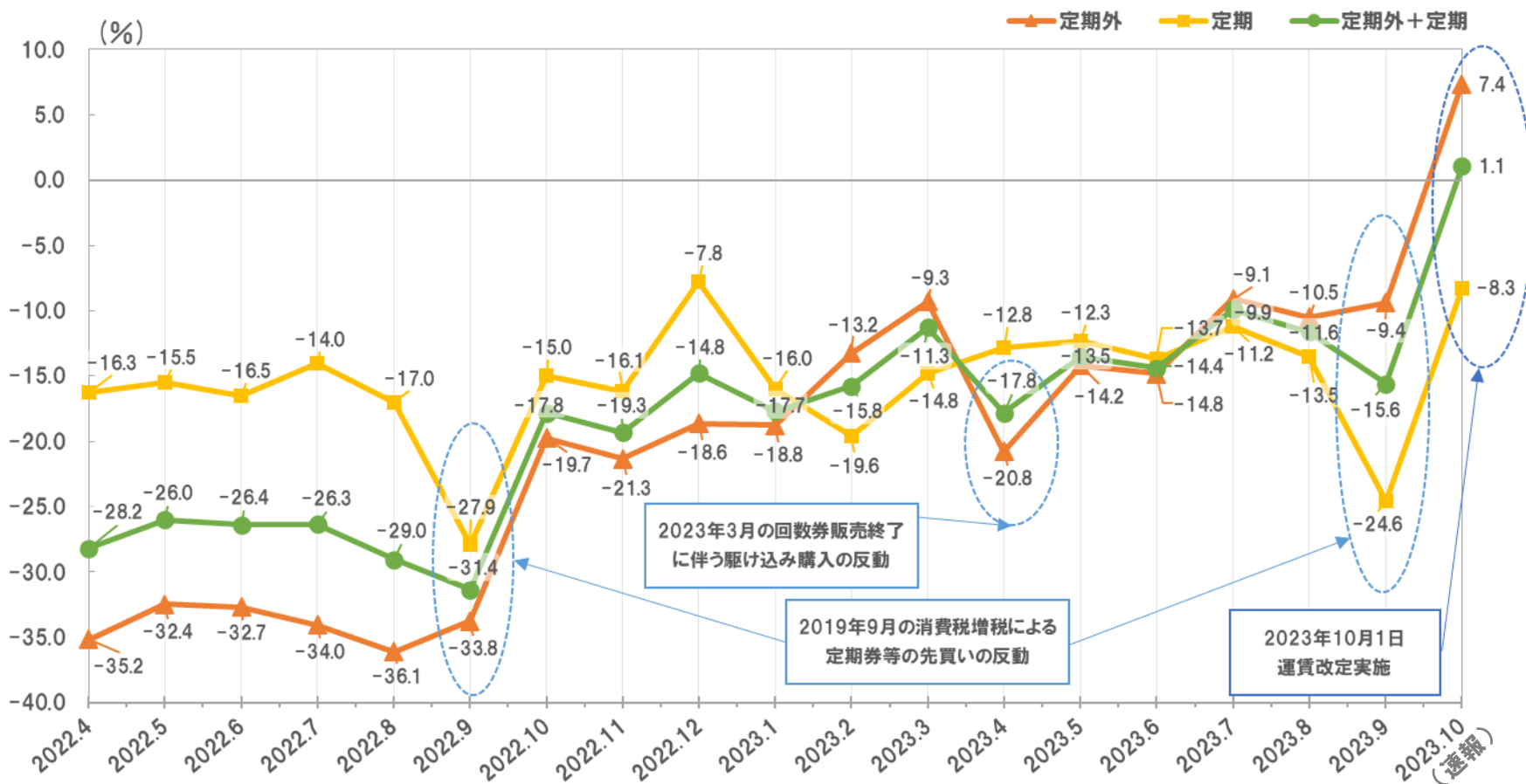
全線			2023/2Q 実績	2022/2Q 実績	増減	増減率
旅客収入	定期外		16,254	12,339	3,914	31.7%
	定期		9,941	9,572	369	3.9%
	合計		26,196	21,912	4,284	19.6%
輸送人員	定期外		44,446	38,331	6,115	16.0%
	定期		63,768	61,958	1,810	2.9%
	合計		108,214	100,289	7,925	7.9%

空港線			2023/2Q 実績	2022/2Q 実績	増減	増減率
旅客収入	定期外		4,247	1,604	2,643	164.8%
	定期		605	421	183	43.4%
	合計		4,853	2,025	2,827	139.5%
輸送人員	定期外		5,308	2,230	3,078	138.0%
	定期		2,018	1,443	575	39.8%
	合計		7,326	3,673	3,653	99.5%

‘なんかいいね’があふれてる

セグメント情報(運輸業)

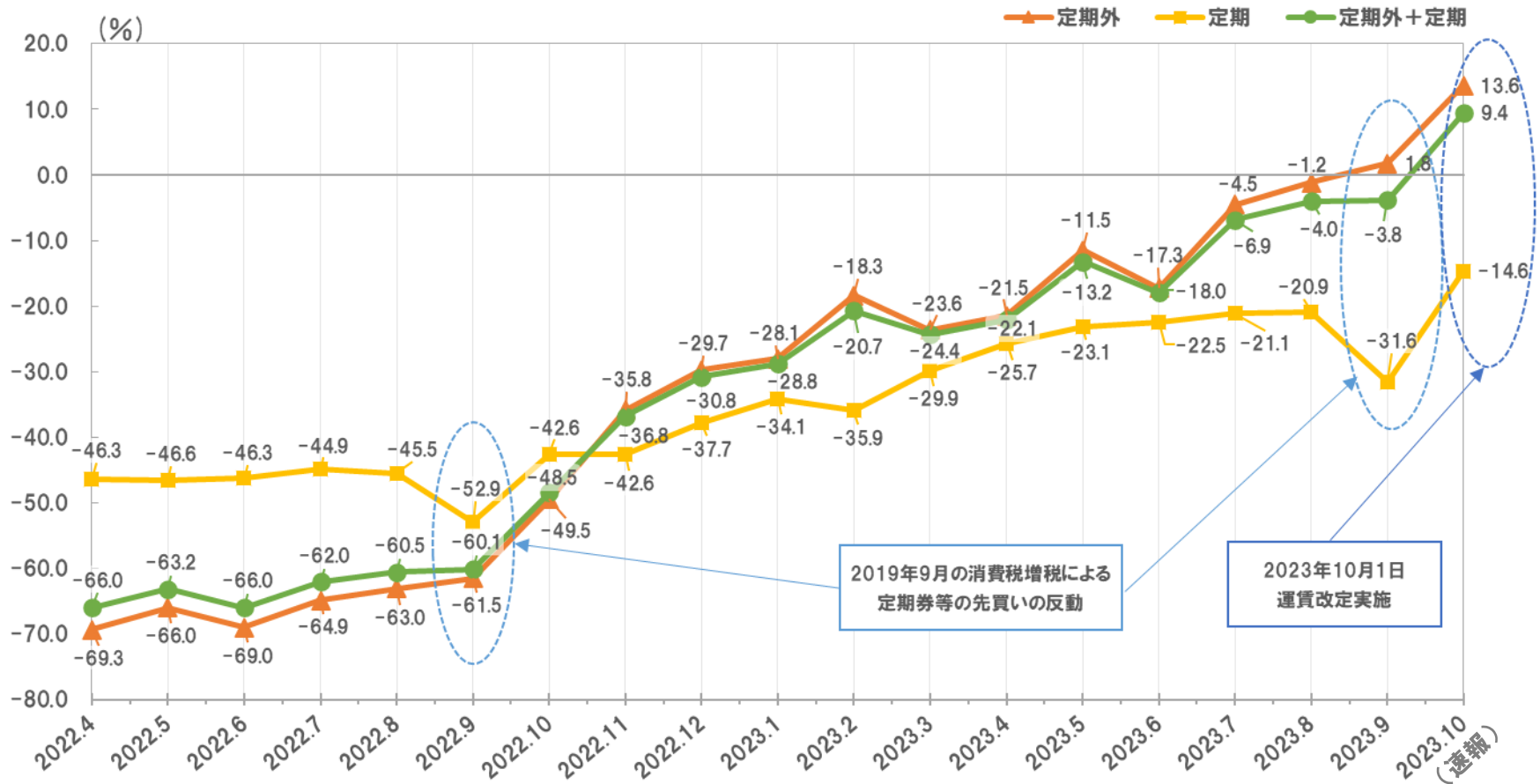
【参考1】(個別－全線)鉄道旅客収入 2019年同月比増減率の推移



※ 2021年4月以降、「収益認識に関する会計基準」等を適用しておりますが、影響額を調整せず単純比較で増減率を算出しております。

セグメント情報(運輸業)

【参考2】(個別-空港線)鉄道旅客収入 2019年同月比増減率の推移



※ 2021年4月以降、「収益認識に関する会計基準」等を適用しておりますが、影響額を調整せず単純比較で増減率を算出しております。

セグメント情報(不動産業)

(単位:百万円)

不動産業	2023/2Q 実績	2022/2Q 実績	増減額	増減率
営業収益	25,218	22,794	2,423	10.6%
不動産賃貸業	17,481	16,782	698	4.2%
不動産販売業	8,118	6,166	1,952	31.7%
調整額(セグメント内)	△ 381	△ 154	—	—
営業利益	7,072	6,657	414	6.2%
主な内訳				
不動産賃貸業	6,317	6,185	131	2.1%
不動産販売業	837	549	288	52.5%

<主な増減理由>

- ・不動産賃貸業は、入国制限の解除に伴うホテル賃貸料収入の増加等により増収増益
- ・不動産販売業は、マンション販売の増加等により増収増益

セグメント情報(流通業)

(単位:百万円)

流通業	2023/2Q 実績	2022/2Q 実績	増減額	増減率
営業収益	13,064	11,824	1,240	10.5%
ショッピングセンターの経営	7,224	6,788	436	6.4%
駅ビジネス事業	6,628	5,661	967	17.1%
その他の流通業	109	260	△ 150	△ 57.8%
調整額(セグメント内)	△ 899	△ 886	—	—
営業利益	1,616	925	690	74.6%
主な内訳				
ショッピングセンターの経営	895	482	413	85.6%
駅ビジネス事業	742	488	254	52.1%

<主な増減理由>

- ・ショッピングセンターの経営は、賃貸料収入が増加したこと等により増収増益
- ・駅ビジネス事業は、ブランド転換を実施したコンビニエンスストアの売上が好調に推移し増収増益

‘なんかいいね’があふれてる

セグメント情報(レジャー・サービス業)

(単位:百万円)

レジャー・サービス業	2023/2Q 実績	2022/2Q 実績	増減額	増減率
営業収益	20,097	18,312	1,784	9.7%
ビル管理メンテナンス業	11,725	10,504	1,220	11.6%
その他のレジャー・サービス業	9,358	8,739	619	7.1%
調整額(セグメント内)	△ 986	△ 931	—	—
営業利益	1,701	1,624	76	4.7%
主な内訳 ビル管理メンテナンス業	517	300	216	72.1%

<主な増減理由>

- ・ビル管理メンテナンス業は、設備工事収入の増加等により増収増益
- ・その他のレジャー・サービス業は、旅行需要の回復等により増収となった一方、売上原価や経費等の増加により減益

セグメント情報(建設業 / その他の事業)

(単位:百万円)

建設業	2023/2Q 実績	2022/2Q 実績	増減額	増減率
営業収益	22,172	19,319	2,852	14.8%
建設業	22,180	19,320	2,859	14.8%
調整額(セグメント内)	△ 8	△ 0	—	—
営業利益	173	980	△ 806	△ 82.3%

<主な増減理由> 完成工事高の増加等により増収、利益率の低下等により減益

(単位:百万円)

その他の事業	2023/2Q 実績	2022/2Q 実績	増減額	増減率
営業収益	1,313	1,080	233	21.6%
その他の事業	1,334	1,092	241	22.1%
調整額(セグメント内)	△ 20	△ 12	—	—
営業利益	△ 58	△ 49	△ 9	—

<主な増減理由> システム収入の増加等により増収、売上原価や経費等の増加により減益

‘なんかいいね’があふれてる

営業外・特別損益の状況

(単位:百万円)

	2023/2Q 実績	2022/2Q 実績	増減額	摘要
営業外収益	974	854	120	
受取利息	13	13	△ 0	
受取配当金	640	524	116	
雑収入	321	316	4	
営業外費用	1,944	2,085	△ 140	
支払利息	1,711	1,798	△ 86	
雑支出	232	286	△ 53	
特別利益	156	390	△ 234	
工事負担金等受入額	153	178	△ 25	
補助金	—	195	△ 195	
その他	2	16	△ 13	
特別損失	525	593	△ 68	
投資有価証券評価損	332	—	332	
工事負担金等圧縮額	150	158	△ 7	
関係会社整理損	—	197	△ 197	
その他	42	237	△ 195	

‘なんかいいね’があふれてる

資産、負債及び純資産の状況

(単位:百万円)

	2023/2Q末	2022年度末	増減額	主な増減理由												
流動資産	87,536	103,616	△ 16,080	<ul style="list-style-type: none"> ●流動資産 ・現金及び預金の減少 △132億円 ・未収金の回収による流動資産その他の減少 △52億円 												
固定資産	838,879	831,497	7,382	<ul style="list-style-type: none"> ●固定資産 ・投資有価証券の増加 +80億円 												
資産合計	926,415	935,113	△ 8,697	<ul style="list-style-type: none"> ●負債 												
負債合計	641,192	660,526	△ 19,334	<p>【有利子負債残高】 (単位:億円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2023/2Q末</th> <th>2022年度末</th> <th>増減額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有利子負債</td> <td>4,476</td> <td>4,745</td> <td>△ 268</td> </tr> <tr> <td>純有利子負債</td> <td>4,224</td> <td>4,361</td> <td>△ 136</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・前受金の増加 +70億円 		2023/2Q末	2022年度末	増減額	有利子負債	4,476	4,745	△ 268	純有利子負債	4,224	4,361	△ 136
	2023/2Q末	2022年度末	増減額													
有利子負債	4,476	4,745	△ 268													
純有利子負債	4,224	4,361	△ 136													
純資産	285,223	274,586	10,636	<ul style="list-style-type: none"> ●純資産 ・親会社株主に帰属する四半期純利益 +88億円 ・その他有価証券評価差額金の増加 +46億円 ・剰余金の配当 △28億円 												
負債純資産合計	926,415	935,113	△ 8,697													

‘なんかいいね’があふれてる

キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	2023/2Q 実績	2022/2Q 実績	増減額	主な増減理由
営業活動による キャッシュ・フロー	20,739	15,371	5,367	<ul style="list-style-type: none"> ●営業活動によるキャッシュ・フロー <ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前四半期純利益 +48億円 ・仕入債務の増減 +10億円
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 4,153	△ 11,852	7,698	<ul style="list-style-type: none"> ●投資活動によるキャッシュ・フロー <ul style="list-style-type: none"> ・固定資産の取得による支出 +43億円 ・固定資産の売却による収入 +34億円
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 29,868	△ 7,909	△ 21,958	<ul style="list-style-type: none"> ●財務活動によるキャッシュ・フロー <ul style="list-style-type: none"> ・有利子負債増減額 △220億円 ○当期 <ul style="list-style-type: none"> 借入金 △248億円 社債 △100億円 コマーシャル・ペーパー +80億円 ○前期 <ul style="list-style-type: none"> 借入金 △118億円 コマーシャル・ペーパー +70億円
現金及び現金 同等物の期末残高	24,257	31,710	△ 7,452	

‘なんかいいね’があふれてる

II. 2023年度 通期業績予想

業績ハイライト

(単位:百万円)

	2023年度			主な増減要因	2022年度 実績 (C)	増減額 (A-C)
	修正予想 (A)	期初予想 (B)	増減額 (A-B)			
営業収益	248,000	253,900	△ 5,900	<ul style="list-style-type: none"> ●営業収益 リートへの物件販売収入の増加を 織り込むも、貨物運送業や建設業を 中心に収入が落ち込み減収を見込む ●営業利益 コロナ禍からの順調な回復に加え、 物件販売収入の増加により増益 ●親会社株主に帰属する当期純利益 経常増益により増益 ●投資額 投資時期の見直し等による減少 ●有利子負債残高 増益によるキャッシュ・フローの改善と 投資額の減少等に伴い減少 	221,280	26,719
営業利益	27,200	24,300	2,900		21,023	6,176
経常利益	25,400	21,400	4,000		18,965	6,434
親会社株主に帰属する 当期純利益	21,800	18,200	3,600		14,623	7,176
投資額	48,100	52,300	△ 4,200		27,872	20,227
減価償却費	27,600	28,200	△ 600		27,619	△ 19
E B I T D A ※	56,000	53,700	2,300		49,645	6,354
有利子負債残高	438,600	451,400	△ 12,800		474,514	△ 35,914
純有利子負債残高	416,100	429,800	△ 13,700		436,105	△ 20,005
有利子負債残高 / E B I T D A ※ 倍率	7.8倍	8.4倍	△ 0.6pt		9.6倍	△ 1.8pt
純有利子負債残高 / E B I T D A ※ 倍率	7.4倍	8.0倍	△ 0.6pt	8.8倍	△ 1.4pt	

‘なんかいいね’があふれてる

※ 営業利益+受取配当金+減価償却費

セグメント別営業収益・営業利益

(単位:百万円)

		2023年度			主な増減要因	2022年度 実績 (C)	増減額 (A-C)
		修正予想 (A)	期初予想 (B)	増減額 (A-B)			
運 輸 業	営業収益	105,400	108,400	△ 3,000	・バス事業+7億円 定期外旅客輸送の増 ・貨物運送業△41億円 輸送運賃下落、取扱高の減	95,532	9,867
	営業利益	7,100	5,900	1,200	・鉄道事業+8億円 増収、動力費の減 ・バス事業+5億円	1,152	5,947
不 動 産 業	営業収益	53,600	52,800	800	・不動産販売業+6億円 リートへの物件販売収入の増	44,627	8,972
	営業利益	13,700	11,800	1,900	・不動産賃貸業+6億円 ホテル賃貸料収入の増、水道光熱費の減 ・不動産販売業+13億円 物件販売収入の増	12,570	1,129
流 通 業	営業収益	25,900	25,200	700	・駅ビジネス事業+9億円 コンビニエンスストア収入の増	23,607	2,292
	営業利益	1,900	1,600	300	・駅ビジネス事業+1億円 ・SC経営+1億円	1,710	189

‘なんかいいね’があふれてる

セグメント別営業収益・営業利益

(単位:百万円)

		2023年度			主な増減要因	2022年度 実績 (C)	増減額 (A-C)
		修正予想 (A)	期初予想 (B)	増減額 (A-B)			
レジャー・ サービス業	営業収益	43,100	43,400	△ 300	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行業+2億円 ・その他レジャー・サービス業△7億円 eスポーツ事業の減 	39,851	3,248
	営業利益	2,600	2,600	—			
建設業	営業収益	45,800	48,400	△ 2,600	完成工事高の減	43,662	2,137
	営業利益	1,800	2,300	△ 500			
その他の 業	営業収益	3,700	3,100	600		2,963	736
	営業利益	100	100	—			
調整額	営業収益	△ 29,500	△ 27,400	—		△ 28,964	—
	営業利益	△ 0	△ 0	—			
合計	営業収益	248,000	253,900	△ 5,900		221,280	26,719
	営業利益	27,200	24,300	2,900			

‘なんかいね’があふれてる

セグメント別投資額・EBITDA

(単位:百万円)

	投資額			修正予想額 主な内訳	EBITDA ※1		
	2023年度				2023年度		
	修正予想 (A)	期初予想 (B)	増減額 (A-B)		修正予想 (A)	期初予想 (B)	増減額 (A-B)
運 輸 業	27,900	30,100	△ 2,200	<収益拡大投資 113億円> ・なんばエリア周辺開発 67億円 ・私募リート設立 13億円 <安全・更新投資 317億円> ・鉄道関連工事 173億円 車両新造、高架橋補強等 ・不動産および 流通施設工事 67億円 <未来探索投資 61億円> ・新規事業 8億円	22,600	21,700	900
不 動 産 業	13,000	14,400	△ 1,400		21,500	19,700	1,800
流 通 業	5,200	5,300	△ 100		5,900	5,700	200
レジャー・ サービス業	2,800	3,400	△ 600		3,800	3,900	△ 100
建 設 業	100	100	—		1,900	2,400	△ 500
その他の事業	100	0	100		100	100	—
調 整 額	△ 1,000	△ 1,000	—		※2 200	※2 200	—
合 計	48,100	52,300	△ 4,200		56,000	53,700	2,300

※1 営業利益+受取配当金+減価償却費

※2 EBITDAの調整額はセグメント間取引消去と受取配当金の合計額であります。

運輸業 鉄道旅客収入と輸送人員表(個別)

【当社鉄道線 修正予想の前提条件】

- 新型コロナウイルス感染症による減収影響は残るものの、足元のインバウンド旅客の状況を踏まえ、空港線(定期外)は期初予想に比べ回復スピードが早まり、既設線(定期外)は期初予想並みに推移すると見込む。

※2023年度下期の見通し(コロナ前(平年ベース)比較)

空港線(定期外): $\Delta 7\%$ (期初予想 $\Delta 20\%$)、既設線(定期外): $\Delta 12\%$ (期初予想 $\Delta 10\%$)

(単位:百万円・千人)

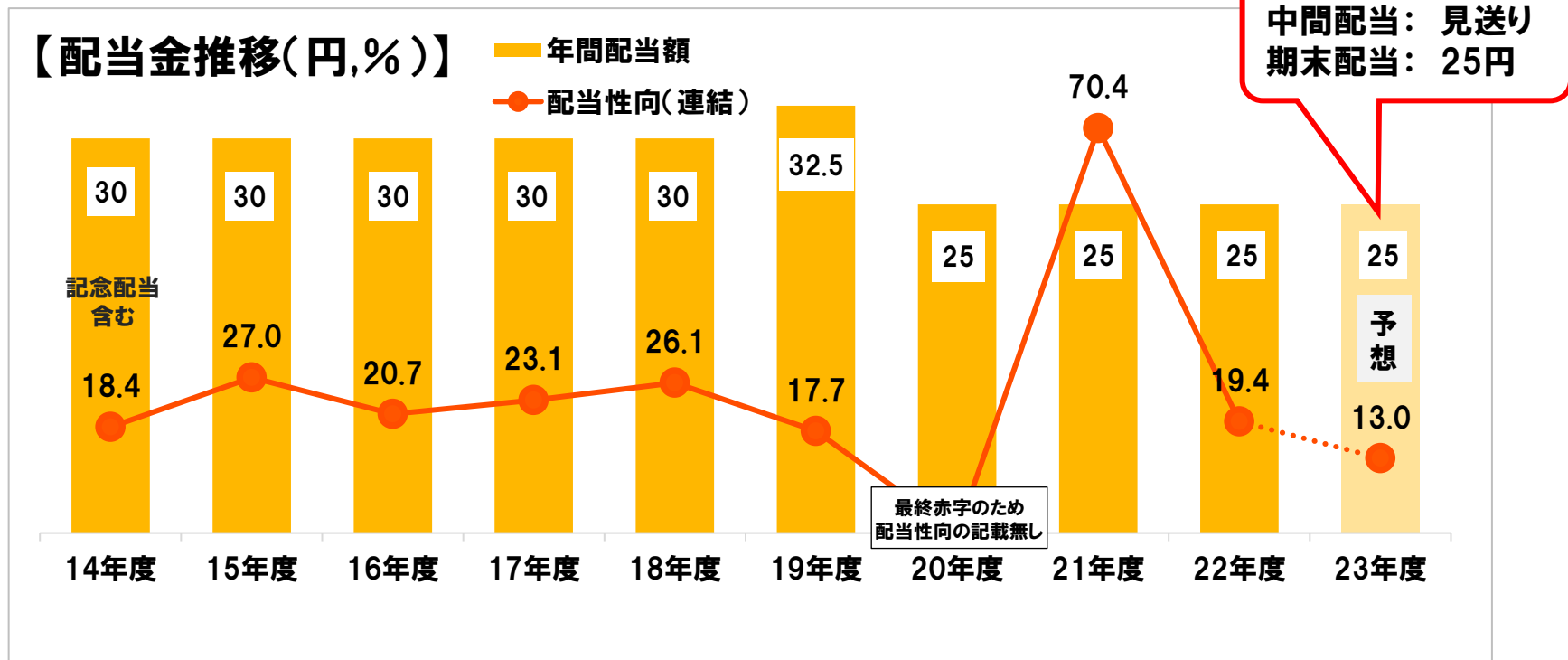
全線		2023年度 修正予想	対前期 増減率	2023年度 期初予想	対前期 増減率	2022年度 実績	対前期 増減率
旅客収入	定期外	33,606	22.3%	34,032	23.8%	27,486	33.8%
	定期	20,830	9.8%	20,462	7.9%	18,971	2.6%
	合計	54,437	17.2%	54,495	17.3%	46,457	19.0%
輸送人員	定期外	89,256	8.7%	92,585	12.8%	82,077	24.4%
	定期	126,342	3.8%	124,712	2.5%	121,694	4.1%
	合計	215,598	5.8%	217,297	6.6%	203,771	11.4%

空港線		2023年度 修正予想	対前期 増減率	2023年度 期初予想	対前期 増減率	2022年度 実績	対前期 増減率
旅客収入	定期外	8,960	80.9%	7,862	58.7%	4,953	124.8%
	定期	1,490	67.4%	1,267	42.4%	889	14.0%
	合計	10,450	78.8%	9,130	56.2%	5,843	95.8%
輸送人員	定期外	10,734	65.3%	9,708	49.5%	6,494	103.3%
	定期	4,152	37.5%	3,430	13.6%	3,020	14.8%
	合計	14,886	56.5%	13,138	38.1%	9,514	63.3%

‘なんかいいね’があふれてる

株主還元

- 長期にわたる安定的な経営基盤の確保と財務体質の強化に努めつつ、収益のさらなる向上を図ることにより、安定的な配当原資を確保する
- 今後も、経営環境/業績の動向/設備投資その他の投資機会等の要素を広く総合的に考慮し、安定的な配当を継続する



※2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施
 ※2017年度以前は株式併合後ベースに換算した配当額(年間)を記載

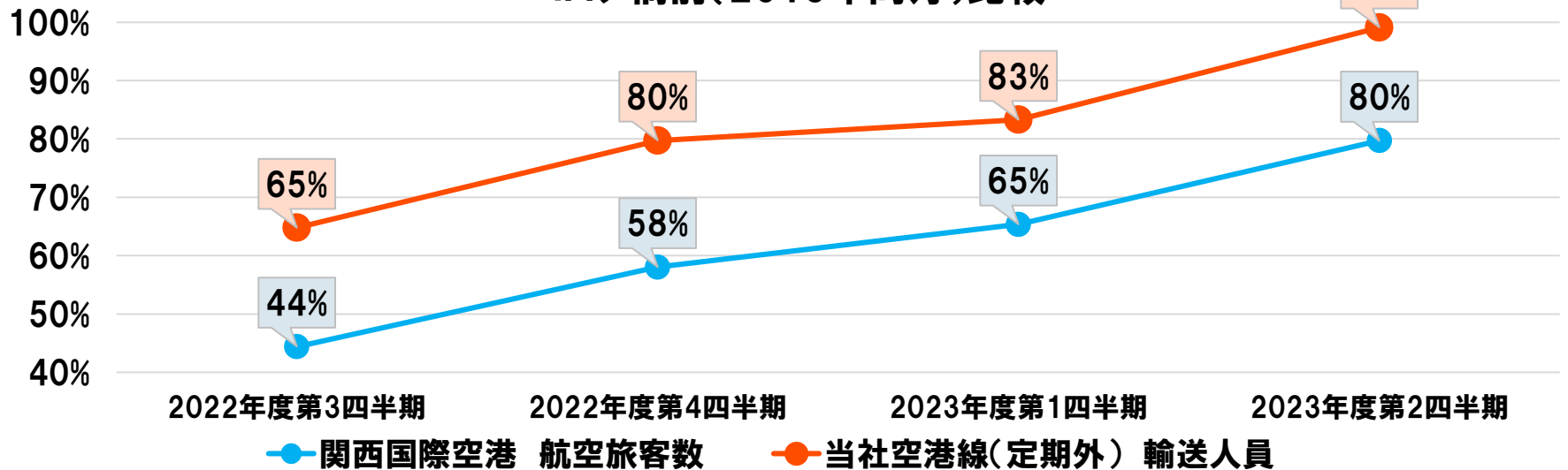
III. 中期経営計画「共創140計画」の 進捗状況

経営環境の認識

- 既設線の戻りはやや鈍いが概ね想定通り、コロナ禍前対比約90%弱の水準で推移
- インバウンド需要の回復が堅調、今後の成長ドライバーであることを再認識

運輸

関西国際空港 航空旅客数 および当社空港線(定期外) 輸送人員
コロナ禍前(2019年同月)比較



※ 関西国際空港 航空旅客数 : 関西エアポート株式会社 開示資料を当社加工

不動産

フレイザーレジデンス南海大阪 稼働率
2019年度上期:約83%
→ 2023年度上期:約88%

流通

なんばパークス 免税売上比率
2019年度上期:約5%
→ 2023年度上期:約8%

通期業績予想を上方修正、下半期にかけては
運賃改定の効果もあり、より一層の収益回復を期待

中期経営計画「共創140計画」の位置づけ

基本方針

コロナ禍を経ての「再構築」と「成長への基礎構築」を行う期間

1. あらゆるステークホルダーとの“**共創の精神**”は不変
2. なにわ筋線開業に向けたコア事業の戦略投資を確実に実行
3. 未来に向けての成長の基礎を3年間で構築
 - ・「安全・更新」投資は、3年間で加速させ確実に実行
 - ・「南海グループ経営ビジョン2027」での2つの事業戦略の実行を加速
 - ・新たな事業の芽の育成にも十分な投資枠を確保

経営戦略

1. 公共交通事業のサステナブルな経営
2. 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大
3. 未来への取組み(未来探索)
4. 上記を支える、人事/財務戦略推進

2050年

南海の未来
(企業像)

なにわ筋線
開業

南海グループ
経営ビジョン
2027

満足と感動の提供を通じて、
選ばれる沿線、選ばれる企業グループとなる

深展133計画
(2015～2017年度)

共創136計画
(2018～2020年度)

2021年度
経営計画

共創140計画
(2022～2024年度)

次期中期
経営計画
(2025年度～)

‘なんかいね’があふれてる

「共創140計画」の主な事業戦略

1. 公共交通事業の持続可能な経営 [設備投資:520億円]



- ・ 安全対策・災害対策の計画的な推進
- ・ デジタルテクノロジー活用:新しい技術・枠組みの構築と予防保全の充実
- ・ 収益力の強化、ブランド・サービスの向上
- ・ 新たなサービス - 総合モビリティ事業への進化

2. 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大 [設備投資:930億円]



- ・ 地域共創型まちづくり
- ・ “グレーターなんば”構想の加速 - “アジアのなんば”へ
- ・ 泉北ニュータウンの持続可能なまちづくり
- ・ 物流施設の高度化
- ・ 私募リート設立

3. 未来探索 [設備投資:150億円]



- ・ DX戦略 - デジタル顧客接点の構築と新価値創造
- ・ 新規事業への取組み加速
- ・ 外国人との共生
- ・ ツーリズム関連事業の強化
- ・ ニューノーマルでの新たなサービス提供

共創140計画 事業戦略毎の進捗状況

① 公共交通事業の持続可能な経営

戦略打ち手	2022年度	2023年度 →これまでの具体的な取組み:p53～56参照	2024年度
1 安全対策・災害対策 の計画的な推進		連続立体交差事業(高石市内、堺市内)/車両内防犯カメラ設置/山岳区間における斜面防災対策 高架橋・駅施設等の耐震補強工事/バリアフリー化推進ほか ・通勤車両内防犯カメラ運用開始(2023.6) 【自然災害への適切な対応】 大雨対応(2023.6)、台風7号対応(2023.8) TCFDを考慮した投資計画の立案・実行	・中百舌鳥駅4番線 ホームドア設置 (2024.4予定)
2 デジタルテクノロジー 活用	自動運転の実証試験準備 ハード面の整備/システムに係る検討・安全性評価	ワンマン運転の拡充検討(2024年度目標:南海本線一部区間への拡大) 試験車両を用いた自動運転実証試験(2023.8～) →第三者委員会による検討・評価 駅総合案内センター開設(2023.6～)	
3 収益力の強化、 ブランド・サービスの 向上	【中百舌鳥駅リニューアル】 改札口の移設(2022.9)→商業区画再編/駅内外の美装化(2023.12予定)	車両更新/駅施設・駅トイレの美装化/大阪・関西万博を見据えたプロモーション推進 Visaのタッチ 決済実証実験 ・タッチ決済サービスを継続、カードブランド拡大や利用駅の拡大など利便性向上施策を推進 ・QRコードを用いた「デジタルきっぷ」の継続的な提供および他社との連携強化 運賃改定(2023.10～)	
4 新たなサービス	・空飛ぶクルマ実証実験 ・オンデマンドバス実証実験@泉北エリア (1回目:2023.1～2023.3)	陸海空の輸送手段検討/MaaSの取組み推進 総合モビリティ事業の推進 ・「KANSAI MaaS」アプリ リリース(2023.9) ・オンデマンドバス実証実験@泉北エリア (2回目:2023.10～2024.1)	

※「QRコード」:株式会社デンソーウェーブの登録商標

‘なんかいいね’があふれてる

公共交通事業のサステナブルな経営： 安全対策・災害対策の計画的な推進／デジタルテクノロジー活用

安全対策・災害対策の計画的な推進

- 今中計期間では安全対策・災害対策などへの投資を着実に進めるべく、約437億円を投じる計画

主な工事	投資額※	概要
連続立体交差事業	約34億円	高石市内、堺市内の計画を推進
踏切道の安全性向上	約5億円	踏切支障報知装置の新設、自動踏切遮断器の更新、検知性能を高めた平面式踏切障害物検知装置の導入
車両防犯対策	約3億円	車内防犯カメラの導入
耐震補強工事	約26億円	大規模地震に備えて駅舎や高架橋などの耐震補強を計画的に実施
豪雨対策工事	約10億円	橋梁・法面の安全性向上

※ 2022～2026年度の合計額(南海電鉄のみ)



高石市内連続立体交差事業



車内防犯カメラ



岸里玉出駅耐震補強

デジタルテクノロジー活用

- デジタルテクノロジーを活用したサステナブルな事業運営に向けた取り組みに挑戦

◆自動運転実証試験開始

- 「係員付き自動運転 (GOA2.5) 実現」に向け、和歌山港線において自動運転実証試験を開始
(2023年8月29日夜間～)



試験車両(8300系)

◆駅総合案内センター新設

- 遠隔制御実施駅を順次拡大し、駅窓口の業務を省力化
- これまで駅係員が行っていたお客さま案内などの業務は駅総合案内センターにオペレーションを集約し、より効率的な駅運営を実現
(2023年6月開設)

‘なんかいいね’があふれてる

公共交通事業のサステナブルな経営： 収益力の強化、ブランド・サービスの向上

- 2023年10月の鉄道線旅客運賃の改定(平均改定率10.0%)と合わせた空港アクセス関連の企画乗車券の見直しなどにより、増収を図る
- 当社グループのバス、フェリーにおいても運賃を改定し、需要減、コスト高へ対応

◆運賃改定

- 鉄道をはじめ、当社グループのバス、フェリーにおいて運賃改定を実施(2023年10月1日～)
- 他の当社グループバス会社においても運賃改定を検討中

事業	会社	改定内容
鉄道	南海電気鉄道 泉北高速鉄道	平均改定率10.0% 初乗り運賃 160円→180円 ※南海電気鉄道
	徳島バス	高速バス:200円～500円の 運賃値上げ
バス	南海りんかんバス	路線バス:平均19.6%値上げ
	熊野御坊南海バス	路線バス:那智山線一部区間 の運賃値上げ
フェリー	南海フェリー	運賃値上げ 大人片道2,200円→2,500円

◆企画乗車券の見直し

- 鉄道線旅客運賃の改定と合わせてインバウンド向け企画乗車券の割引率や商品体系の見直しを実施
- 2023年度下半期で約1.4億円※の増収効果を見込む
※鉄道線旅客運賃の改定による増収分を除く

インバウンド向け企画乗車券の見直し		
～9月30日 (販売終了)	Rapi:t Economy Ticket (特急ラピート片道割引乗車券)	1,100円 (▲24.1%)
	NAMBA Access Rapi:t Ticket (特急ラピート往復割引乗車券)	2,150円 (▲25.9%)

10月1日～ (販売開始)	Rapi:t One-way Ticket (特急ラピート片道割引乗車券)	1,350円 (▲9.4%)
------------------	--	-------------------



※ カッコ内は割引率

公共交通事業のサステナブルな経営： 収益力の強化、ブランド・サービスの向上

- 足元では空港線の輸送人員(定期外)はコロナ禍前の水準まで回復、ダイヤ変更の実施によって輸送力を強化
- クレジットカードのタッチ決済やQR乗車券は実証実験を経てサービスを本格展開、大阪・関西万博を見据え、全駅での導入を目指す

◆空港線輸送力強化

- 2023年10月21日より特急ラピートを増便、空港急行の編成車両数を見直し
- 輸送力をコロナ禍前(2019年)と同水準まで強化し需要増加に対応



‘なんかいね’があふれてる



◆タッチ決済・QR乗車券のサービス展開

- タッチ決済は2023年4月にはカードブランドを拡大し、現在5ブランドが利用可能
- QR乗車券は「南海デジタルきっぷ」としてラピートデジタルきっぷなど各種企画乗車券を発売
- 2025年開催予定の大阪・関西万博に向けてエリアを順次拡大し、観光客・インバウンド旅客などお客さまの利便性向上を図る



タッチ決済



南海デジタルきっぷ

公共交通事業のサステナブルな経営： 総合モビリティ事業の推進

- 沿線での地域活性化モデルの構築に向け、各種取り組みを推進

取り組み事例/具体的施策、今後のねらい

◆沿線自治体との共創

- 各地域の交通事情を踏まえ、複数の沿線自治体と協議を開始
- 自治体との共創により、鉄道と便利にリンクする地域交通の充実を図る

◆関西MaaS

- 関西MaaS協議会※にて「KANSAI MaaS アプリ」をリリース
- マルチモーダルでの乗換経路検索、電子チケットサービス、観光関連情報の各サービスに加え、駅構内図や列車走行位置情報への連携などをワンストップで提供
- 顧客接点の構築強化と需要創出を企図



※運営主体：関西に主要路線を持つ
当社を含む鉄道会社7社

総合モビリティ 事業の推進

◆交通モードを超えた企業間連携

- 閑散区における効率化・合理化に向け、企業の垣根を越えた取り組みを実施
- 当社グループの徳島バス(高速バス)はJR四国(牟岐線)の乗車券を共通利用できる制度を実現
- 今後も同様の事例に適したエリア、交通機関がないか検討



◆オンデマンドバス実証事業

- 泉北ニュータウン地域で「NANKAIオンデマンドバス」の実証事業第2弾として、2023年10月から4か月間、第1弾よりもエリアを大幅に拡大して実施中
- ラストワンマイルの一翼を担うと期待されるオンデマンドバスの事業化を模索



NANKAIオンデマンドバス
ディズニープラス
ラッピングバス



地域の社会課題解決/持続的成長の両立によって
総合モビリティ事業の推進を図る

共創140計画 事業戦略毎の進捗状況

② 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大

戦略打ち手	2022年度	2023年度 →これまでの具体的な取組み:p53~56参照	2024年度
1 地域共創型まちづくり	<p>地域活性化施策の実施(沿線価値向上プロジェクト)/沿線課題の解決/エリアブランディング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定住促進：自治体と連携した住環境の魅力発信及び転入特典の実施「まちの参観日」 ・子育て/教育：子育て世代にとって「子育てするのが楽しいまち」を築き上げていくプロジェクト「家族にえがお+1」 ・産業振興/起業支援：沿線企業の魅力向上・発信に取り組む「採用・オープンファクトリー・イノベーション支援」 ・農業振興：沿線産物のブランディング、新たな販路拡大に取り組む「NANKAI FARMERS' MARKET」 ・リノベーションまちづくり：新たなまちのコンテンツ創出につなげる「リノベーションスクール@加太線」 		
2 “グレーターなんば” 構想の加速	<p>物件取得/所有物件の開発/既存物件の刷新</p> <p>【なんば駅周辺における空間再編推進事業】 なんば駅前広場整備(2023.11 先行供用開始)→なんば駅前広場～なんさん南北通り整備(2025.3 完成予定)</p> <p>【難波中二丁目開発計画】 新街区「なんばパークス サウス」 グランドオープン(2023.7)</p> <p>【既存物件の刷新(ショッピングセンター)】 ・なんばパークスリニューアル (パークスガーデン第1期:2023.11、なんばパークスミュージアム開業:2024.4予定) ・なんばEKIKANリニューアル(2023.9~10)</p> <p>【恵美須町土地開発計画】 シェアスタイル型賃貸マンション 「サザンクレストなんば南」入居開始(2023.11)</p> <p>【(仮称)難波千日前オフィスビル開発計画】 2023.10着工 → 2025年春 開業予定</p>		
3 泉北ニュータウンの サステナブルなまちづくり	<p>【泉ヶ丘駅前活性化計画】 既存物件の一部解体(2023.7完了)</p> <p>【泉ヶ丘駅前活性化計画】 新築工事延期、事業計画見直し</p> <p>泉北ニュータウンスマートシティ戦略推進</p>		
4 物流施設の高度化	<p>大阪府食品流通センターE棟 高度化工事(2023.4 開業)</p> <p>北大阪トラックターミナル第II期棟 高度化工事(2025年度末 竣工予定)</p>		
5 私募リート設立	<p>・AM会社設立 (2022.10)</p> <p>・投資法人設立 (2023.7)</p> <p>「南海プライベートリート投資法人」 物件組入、運用開始(2023.11~)</p>		

‘なんかいね’があふれてる

選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大： “グレーターなんば構想”の加速(なんば駅前広場整備)

- なんば駅周辺を人中心の空間へ「なんば広場」は広場部分先行供用開始、なんさん通りの整備後、全体完成は2025年3月予定
- 当社は「なんば広場マネジメント法人設立準備委員会」の一員として、地域の回遊性向上やミナミのエリア価値向上に資するイベント等を誘致し、賑わいを創出

※「なんば広場」：社会実験中の仮称

コンセプト

大阪のおもてなし玄関口



昼間パース



夜間パース

「なんば広場」先行供用・社会実験開始
2023年11月23日(予定)

目指す姿

人のまちミナミの中心として、
居心地よく安心感のある空間

ミナミ・大阪・関西を回遊するための
魅力・情報の発信拠点

安全・安心な空間の創出



なんさん通り(完成イメージ)

なんさん通り(南北)を含む
「なんば広場」全体供用開始
2025年3月(予定)

‘なんかいね’があふれてる



選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大： “グレーターなんば構想”の加速(新規物件の開発)

- なんば広場の南、なんさん通り沿いに「(仮称)難波千日前オフィスビル」を建設
- 恵美須町土地にシェアスタイル型賃貸マンション「サザンクレストなんば南」を竣工



施設名	(仮称)難波千日前オフィスビル	サザンクレストなんば南
用途	オフィス・店舗など	シェアスタイル型賃貸マンション
敷地面積	約439㎡	約894㎡
延床面積	約2,456㎡	約6,523㎡
階数	地上9階建	地上13階建
竣工	2025年2月 (予定)	2023年10月
事業費	約1,565百万円	約1,706百万円
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 2025年3月に歩行者空間化するなんさん通りのパブリック空間に面する立地 なんば駅から関西国際空港に直結する立地を活かし、まち全体の賑わいを創出するテナントを誘致 	<ul style="list-style-type: none"> 阪堺線 恵美須町駅周辺の活性化の一環として、インドアテニススクールに続いて開発 入居者の交流活性化を目的としたコミュニティスペースやコワーキングスペースを完備 当社グループで初めてZEH-M Oriented認証を取得

➡ 来街人数・滞在時間・来街頻度を向上させることで
グレーターなんばエリアの消費機会拡大を企図

‘なんかいね’があふれてる

選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大： “グレーターなんば構想”の加速(既存物件の刷新)

なんばパークス： 集客を核にした事業モデルを確立

◆パークスガーデンリニューアル

(第1期:2023年11月、第2期・グランドオープン:2024年春完成予定)

- ・ 「タッチングネイチャー」をコンセプトに過去最大規模のリニューアルを実施
- ・ 時代の変化と多様なお客さまのニーズに応えられる空間を創出



◆上層階への集客機能強化

(なんばパークスミュージアム:2024年4月開業予定)

(THE SUMO HALL HIRAKUZA OSAKA:2024年初夏開業予定)

- ・ インバウンド旅客を含む国内外のお客さまに特別な期待感を楽しんでいただくリアル体験の場を提供
- ・ 上層階にエンターテインメント/体験型施設を開業することで、滞在時間の拡大、既存店舗へのシナジー創出も期待

なんばパークスミュージアム
(完成イメージ)



「THE SUMO HALL HIRAKUZA OSAKA」
画像提供:株式会社阪神コンテンツリンク

なんばパークス サウス： なんば駅以南のにぎわいを創出

- ・ 難波中二丁目開発計画として、複数の企業との共同事業により開発を進めてきた「なんばパークスサウス」を2023年7月1日にグランドオープン
- ・ なんばパークス南側に広がる約9,000㎡の敷地にホテルや店舗、オフィスを誘致し、各施設とも上々の滑り出し

NAMBA
PARKS
SOUTH



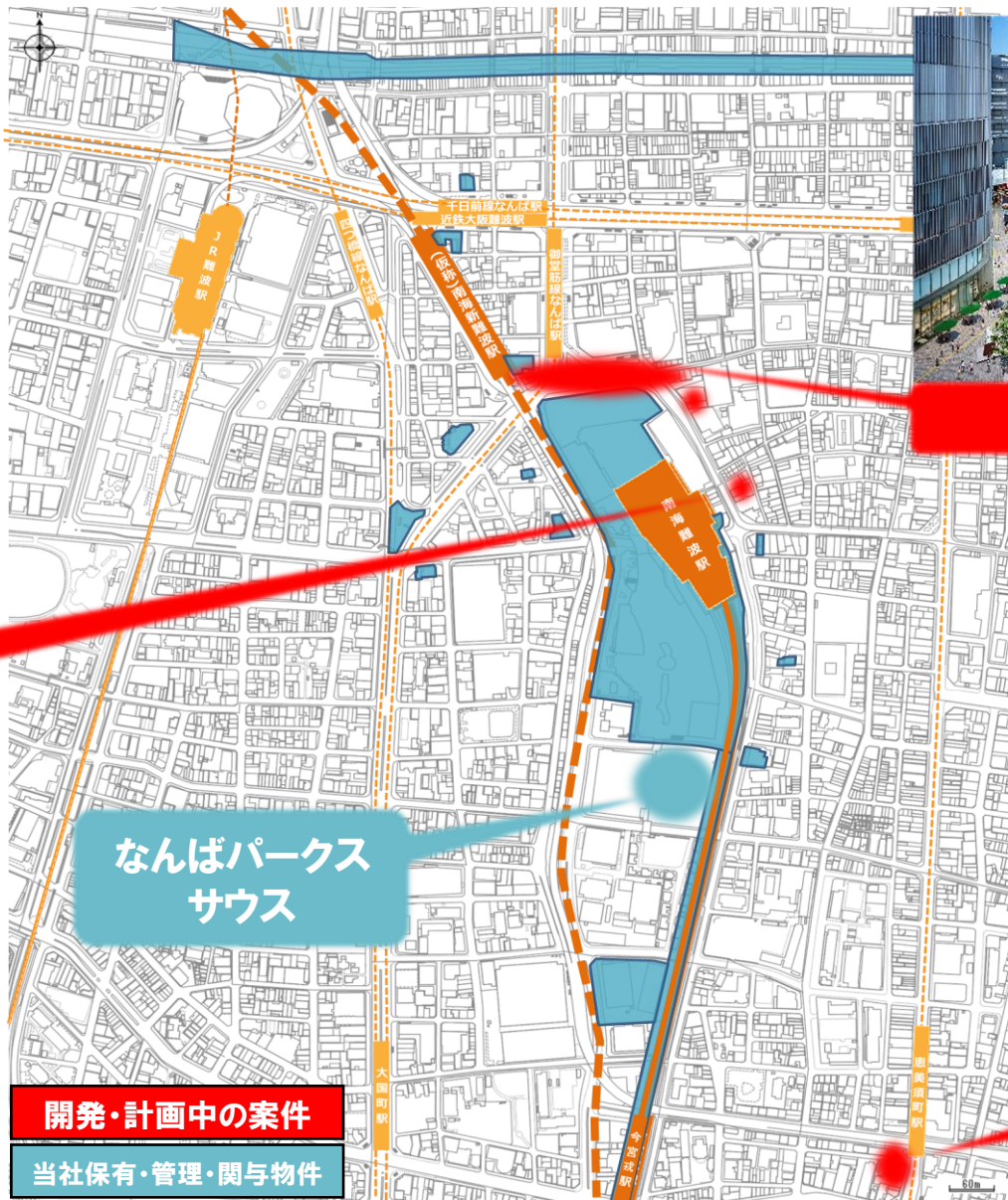
なんばEKIKAN:

「なんばの南方向への拡大」を担う高架下商業施設

- ・ 「新しいつながりへ。」をコンセプトに、リニューアルを実施し、2023年9月から順次オープン
- ・ 周辺施設には入居していない独自性あふれる店舗、「大きな音を出すことができる」高架下の特性を最大限活用したライブハウスなどの店舗を誘致

「なんかいね」があふれてる

【参考】なんばエリア広域MAP



**(仮称)
難波千日前
オフィスビル**



なんば広場



**サザンクロス
なんば南**

開発・計画中の案件
当社保有・管理・関与物件

選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大： 私募リート設立

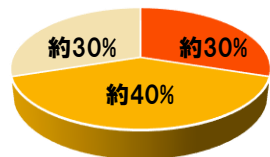
- 私募リート「南海プライベートリート投資法人」を設立、運用開始
- 当社グループの事業基盤を中心とした「総合型リート」を特徴とする
- 売却資金はなんばや泉北ニュータウンをはじめとする沿線のまちづくりの推進/加速、物流施設の高度化などへの投資資金として活用

◆投資法人の概要

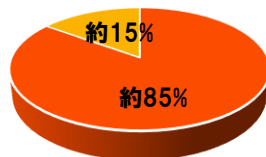
名称	南海プライベートリート投資法人
設立年月日	2023年7月3日
投資対象	オフィス、商業施設、レジデンス
資産規模	約210億円(運用開始時点)
組入物件数/ 主要物件	9物件/なんばパークス(パークスタワー含む)※ ※区分所有権の共有持分の7.5%
運用開始日	2023年11月16日
資産運用会社	南海リートマネジメント株式会社(連結子会社)

【参考】運用開始時点におけるポートフォリオデータ

アセットタイプ比率



エリア比率



● オフィス ● 商業 ● レジデンス ● なんば・沿線 ● その他

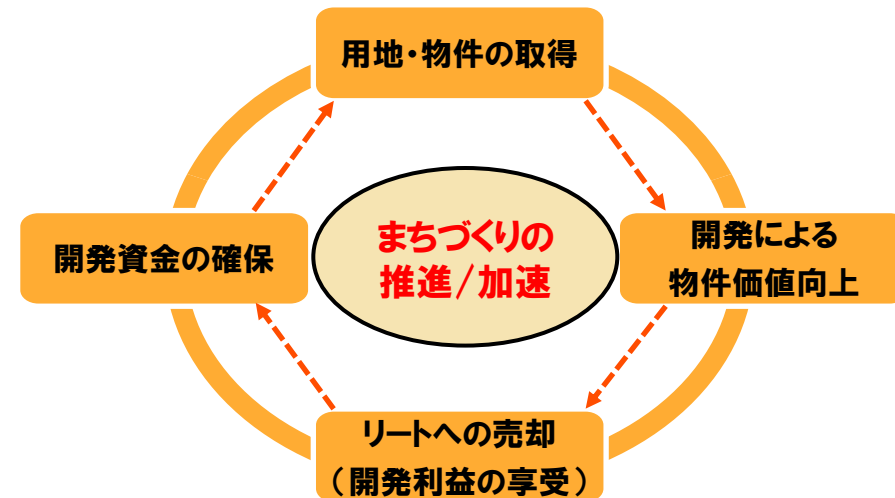


なんばパークス

‘なんかいいね’があふれてる



◆私募リート設立のねらい



◆今後の方針

- オフィス、商業、レジデンスを中心として、アセットタイプを多様化
- なんば・沿線エリアを中心とした関西圏の物件を軸にエリアを分散

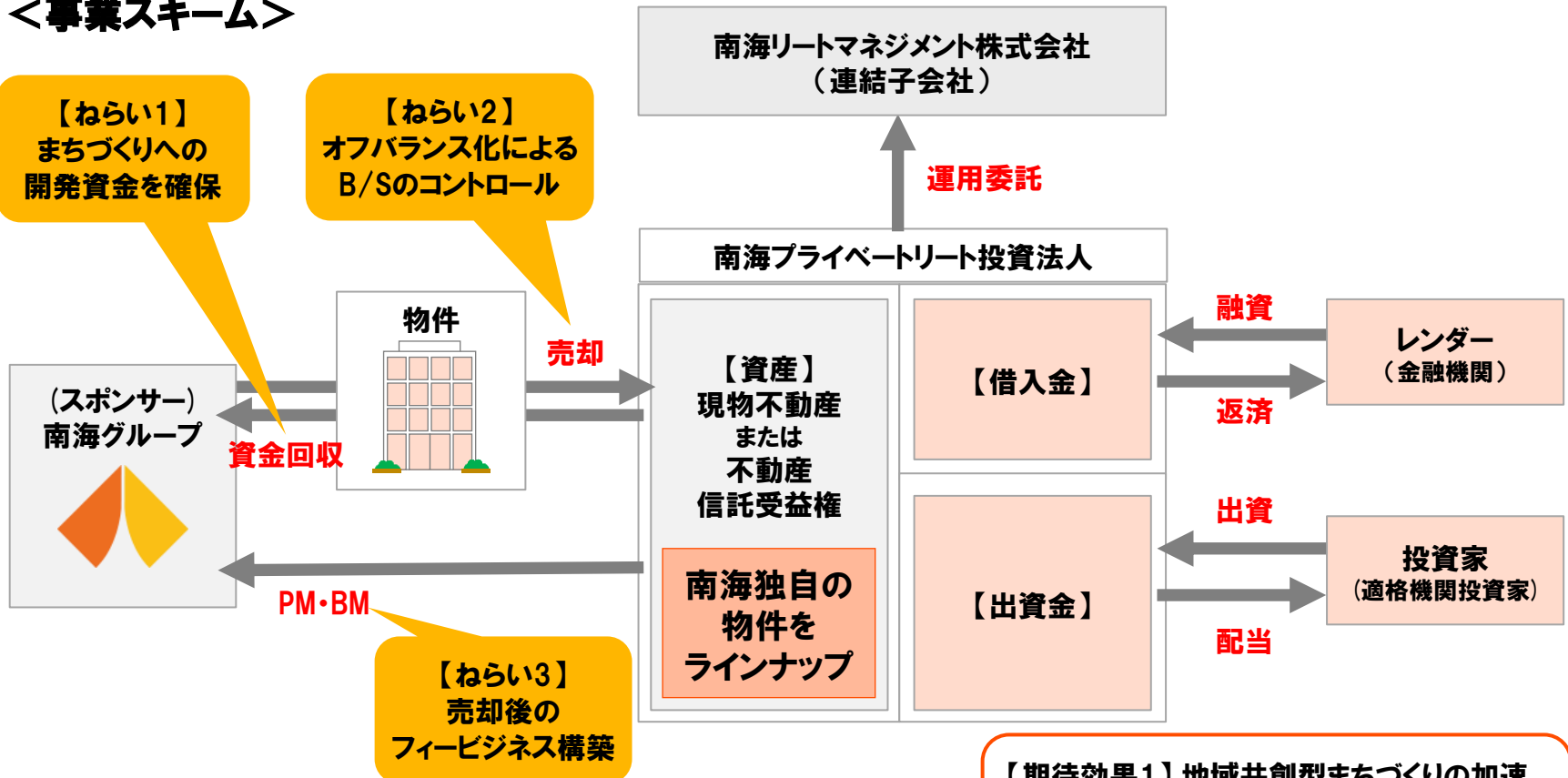


3～5年以内に約500億円の
資産運用規模をめざして成長を図る

【参考】私募リートのスキーム

- 私募リートの活用により、B/Sをコントロールしながら保有・開発資産を私募リートに売却する出口戦略を構築するとともに、売却後のフィービジネス(PM・BM)による不動産収益の多様化、不動産運用能力のレベルアップを図る

<事業スキーム>



- 【期待効果1】 地域共創型まちづくりの加速
- 【期待効果2】 BSスリム化、ROA向上
- 【期待効果3】 不動産収益の多様化

‘なんかいね’があふれてる

共創140計画 事業戦略毎の進捗状況

③ 未来探索

戦略打ち手	2022年度	2023年度 →これまでの具体的な取組み:p53~56参照	2024年度
1 DX戦略		デジタル顧客接点の拡充で暮らしやすさ向上/地域の人々と多彩なサービスをつなぐポータルサイト構築 minapitaポイント新サービス開始(第1弾:2023.3~、第2弾:2023.11~)	
2 新規事業への 取組み加速		eスポーツ事業に本格参入 → eスポーツ業界におけるポジショニング確立、早期マネタイズ ・eスタジアム株式会社設立、事業開始(2022.6) 【自治体協業】 eスタジアム泉佐野、eスポーツキャンプ 【企業協業】 eスタジアムいずみ、eスタジアム岐阜 新規事業開発プログラム「Fly beyond」 → 事業創出支援プログラム「beyond the Border」 新事業創出を通じた人材育成プロジェクト 「共創シティ・サステナブルわかやまプロジェクト研究」 の発足(2023.10)および活動(2024.1~2024.9)	
3 外国人との共生		ハード/ソフトの両面で外国人とともにサステナブルなまちづくりを推進 <ハード面>新今宮に所有する当社施設内に学生寮を誘致 <ソフト面>海外IT人材紹介事業「Japal」の本格事業化(2022.11~)、産学金での事業提携:5件(2023.1~)	
4 ツーリズム関連事業 の強化		観光コンテンツの拡充/PRIによる旅客誘致推進/旅行商品の造成/新たなマネタイズ方式の確立 ツーリズム戦略の深度化、事業化	
5 ニューノーマルでの 新たなサービス提供		新しいライフスタイルサービスの創出/シェアオフィス「Lieflice」の事業拡大 【2023年度の実施策】 ・鉄道会社初 車庫内での貸し切りキャンプイベント ・3店舗目の直営シェアオフィス「Lieflice堺東」開業 ・ペビーカーシェアリングサービス「ヘビカル」実証実験@泉北ニュータウン	⇒ 「生活を便利にするサービス」をコンセプトに前例にとられない斬新な発想で、これまで培ってきた「新しいサービスを創る力」に磨きをかける

‘なんかいいね’があふれてる

未来探索： ツーリズム戦略の方向性(事業骨子)

- 運輸・不動産などの既存事業と有機的に連携し、第3の事業軸として育成するためツーリズム戦略を深度化
- 大阪・関西万博、IR(統合型リゾート)を見据え、国内外の観光客を沿線エリアに取り込む仕掛けづくりを行いながら、沿線エリアの価値向上とブランド力向上を図る

③ エリア・ソリューション

① 移動の価値の再定義

これまでの特定地への
大量輸送メインから



移動の価値を創出し
地域に好循環をもたらす

② 移動の目的を創出・事業化

ヒトの根源的欲求や探求心
に資する移動の目的を創出



ツーリズム起点で公共交通、
不動産の価値を最大化

⑤ デジタルマーケティング

なんば・関西国際空港を拠点に
沿線に保有する2つの世界遺産



「移動の目的」
を創出

④ 海外ダイナミズムの取込み

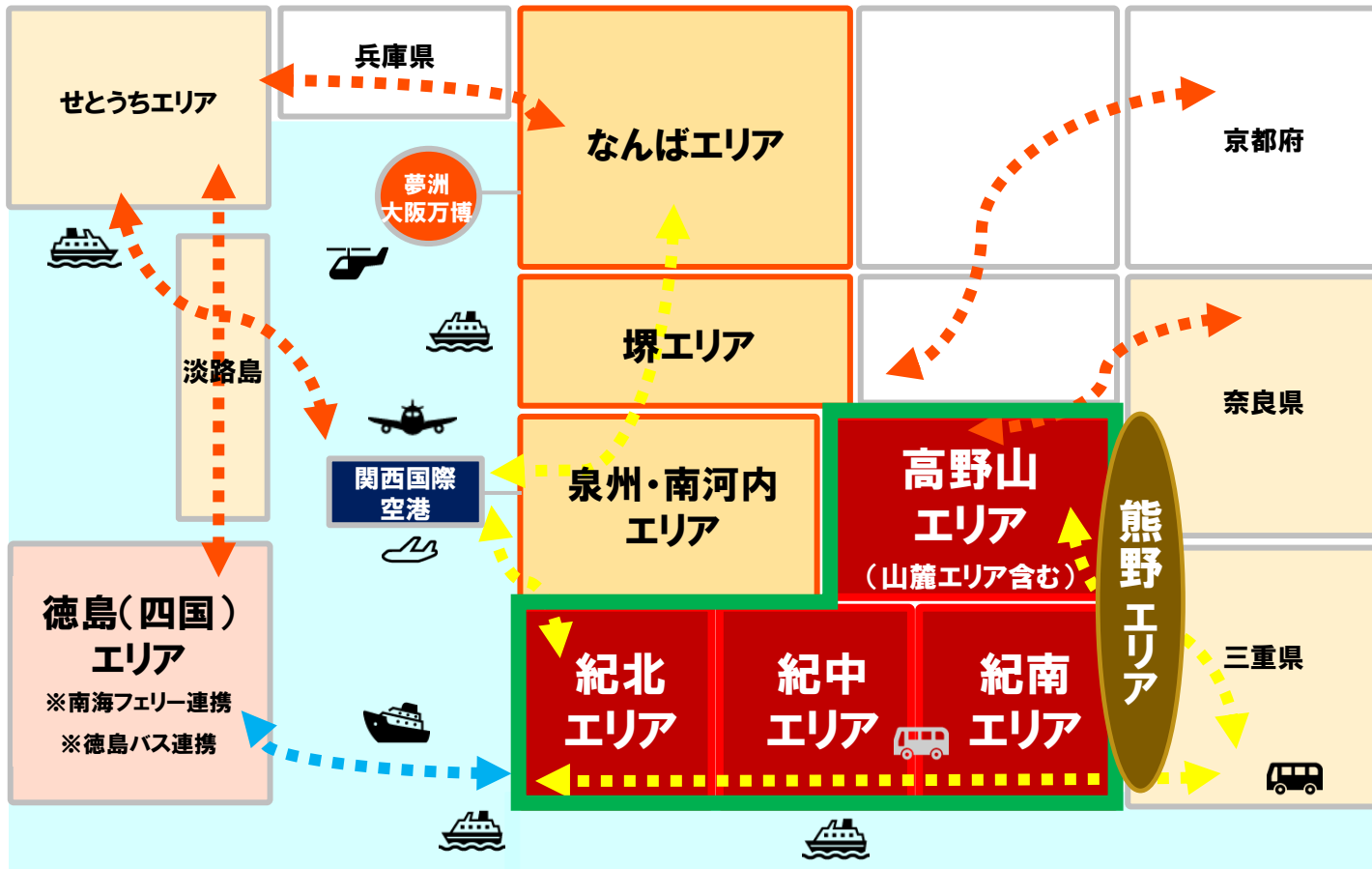
「ヒトの移動」を起点に
流れを可視化するマーケティング

当社グループの強みである「ポテンシャルの高い観光資源」を活かしながら、
エリア周遊・体験の拡充を図り、宿泊・レジャー施設などの展開も視野に事業化を検討

「なんかいね」があふれてる

未来探索： ツーリズム戦略の方向性(エリア・ソリューション)

- 当社沿線と関連事業のエリアでもある和歌山県に重点を置きつつ、関西国際空港をフックに、西はせとうち・四国から東は奈良、三重も含めた広域的なエリアにおいて、他社との連携・共創を前提にヒトの移動を起こすツーリズムの流れを構築



‘なんかいね’があふれてる

未来探索： 新規事業への取り組み加速

eスポーツ事業

◆現在

官民連携型としてeスポーツ施設や大会・イベントの運営事業を手掛ける

◆今後

eスポーツ市場におけるポジショニングを確立し、新たな自治体や民間企業との協業によりビジネスモデルの進化を図る

【eスポーツキャンプ2023 Summer】



- ・ 大阪府泉佐野市主催で昨年に引き続き2年連続の開催
- ・ 北海道から福岡までの高校生39名が参加
- ・ 保護者、行政、企業に向けた講演も実施し、今後のアライアンス創出につなげる

【eスタジアム なんば本店】



- ・ 2023年9月になんばスカイオからなんばパークスへ移転
- ・ eスタジアムの基幹店としてエリアを拡張し、自治体や企業との協業に資する空間を設置

和歌山市におけるイノベーション事業育成

- ・ 当社、和歌山市、学校法人先端教育機構 事業構想大学院大学の三者が相互連携し、和歌山市域の課題解決に資する地方創生の推進に向けた具体的な取り組みをスタート
- ・ 産学官連携により新規事業を生み出し、地域活性化を図る



「共創シティ・サステナブルわかやまプロジェクト研究」発足式

未来探索： 外国人との共生(海外人財紹介事業の推進)

- 当社沿線の立地を活かし、日本人だけではなく海外からの人々とともに“サステナブルなまちづくり”を、ハード(教育施設など)/ソフト両面から検討・推進する

ハード



日本人向けに
“英語で過ごす場”を提供



当社施設
(新今宮)

外国人向けの研修や
トレーニングを実施



- 新今宮エリアにおける外国人就労支援、交流拠点の機能強化を検討
- グローバルハブとしての賑わい創出を加速

‘なんかいね’があふれてる



ソフト

高度ネパールIT人財の紹介事業
“Japal(ジャパール)”の事業拡充



ネパールのIT人財に
現地の日本語学校で
日本語教育



(沿線を中心とした)
企業に紹介

- 海外人財の受入に特有の手続き(ビザ取得、来日準備)や就労定着を手厚く支援
- “Japal”交流会を通して、定着支援・相互理解を促進

“Japal”交流会



- ネパール、日本両国の社会課題解決に資する事業として、駐日大使館などネパール国との関係強化
- 沿線・企業のダイバーシティ化を促進



IV. サステナブル経営の取り組みについて

サステナビリティ方針ならびにサステナブル重要テーマ

サステナビリティ方針(2021年4月制定)

基本的な考え方

沿線エリアを中心に、地域住民・自治体・企業等、さまざまなステークホルダーと共創・協働し、企業理念の実践を通じて、「持続的な企業価値の向上」と「持続可能な社会の実現」の両立をめざします。

サステナブル重要テーマ(マテリアリティ)

安全・安心・満足のさらなる追求	  	一人ひとりが能力を発揮できる職場・ひとづくり	    
賑わいと親しみのあるまちづくり	   	地球環境保全への貢献	       
夢があふれる未来づくり	   	誠実で公正な企業基盤強化	   
豊かな暮らしの実現	    		

具体的な取り組み(1)

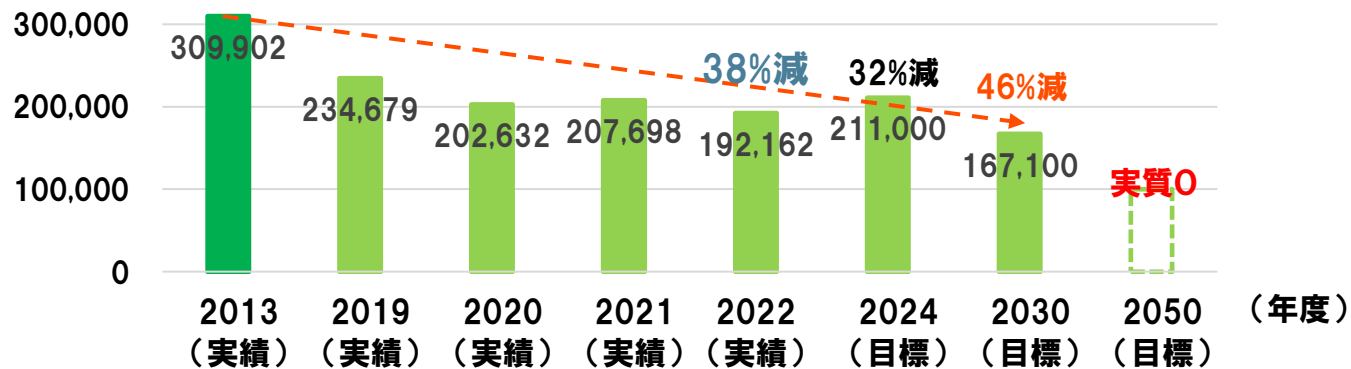
脱炭素社会の実現

● CO2排出量削減の取り組みを推進

→ 2022年度は2013年度比で38%減少、目標に向けて堅調に推移

(t-CO2)

※ 実績および削減目標の対象はスコープ1+2



気候変動への取組み

● TCFD提言へ賛同、TCFD提言に基づく情報を開示

【2023年度開示内容】

項目	内容
対象	会社: 南海電気鉄道(株)、泉北高速鉄道(株)、南海不動産(株)、南海商事(株) 事業: 鉄道事業、不動産・流通事業
開示事項	気候変動に関するリスク(移行リスク/物理的リスク)と機会 リスク・機会により想定される定量的な事業インパクト(財務インパクト)

‘なんかいいね’があふれてる

具体的な取り組み(2)

スコープ1・2の第三者保証取得 スコープ3の公表

- 2021年度実績のエネルギー起源CO2排出量(スコープ1・2)について第三者保証を2023年4月に取得
- 事業活動によるCO2排出量(スコープ1・2)に加え、サプライチェーンで発生する間接排出量(スコープ3)について初めて算出
→ 2021年度実績は約745,000t-CO2

GPIFが採用するESG投資指数に選定

- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数
- S&P/JPXカーボンエフィシエント指数
- Morningstar 日本株式
ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数
(除くREIT)

南海グループ 統合報告書 2023の発行

- 当社グループの価値創造を「2050年の企業像」の実現と捉え、その実現に向けた「成長戦略の着実な実践」と「変革を支えるサステナブル経営」を中核コンテンツに構成
- 新たな企業風土の構築に挑む会長・社長メッセージを掲載
- 人的資本の充実に向けた考え方、取り組みを特集
- 当社グループの事業ポートフォリオの全体像、各事業の現在と未来を読み解くための情報を掲載



具体的な取り組み (3)

人的資本の充実に向けて

- 「経営戦略」と「人事戦略」との連動強化により、各種施策に取り組む

中計期間における 人事戦略の重要テーマ

- 生産性向上
 - 生産性向上に資する働き方改革の推進
- 人財の確保と育成
 - 事業の中核となる人財の確保と育成
- 多様な活躍の場の提供
 - ダイバーシティ&インクルージョンの推進加速

人財育成方針

- 経営人財・専門人財の育成とダイバーシティ&インクルージョン
- イノベーションと生産性の向上に資する能力開発の促進
- グループ各事業を支える人財の確保・定着支援

社内環境整備方針

- 生産性向上に資する働き方改革の推進
- 育児・介護等を行う人財に業界最高水準の働きやすい環境を提供
- 健康経営の推進
- 人権尊重とハラスメントの防止

【事例紹介】人財づくりと組織づくり

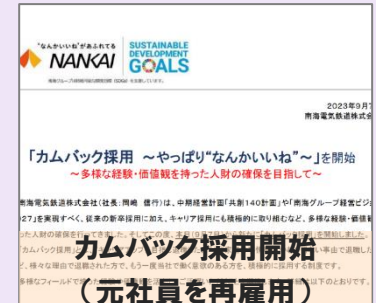
3つのキャリアコース (適材適所の人財配置)

マネジメントコース

エキスパートコース

鉄道プロフェSSIONALコース

専門人財の育成と確保



総括

1. 2024年3月期は順調に回復する見込み

運輸業における輸送人員増加や運賃改定効果、リートへの売却収入が寄与し、
通期の営業利益予想は272億円で、中期経営計画の目標を1年前倒して達成見込み

2. 共創140計画は一定の成果を挙げるものの、未来探索での具体化が課題

公共交通事業のサステナブルな経営

- ・収益力の強化など戦略打ち手を着実に実行
- ・総合モビリティ事業の推進は道半ばであり、自治体と共創しながら進化を図る

選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大

- ・グレーターなんばへの取り組みなどの戦略打ち手は順調に進捗
- ・回転型ビジネスモデルの確立など不動産事業の総合力強化を図る

未来探索

- ・eスポーツやツーリズム事業など第3の柱へ育成途上
- ・早期の事業化、収益化の実現を目指す

3. 「再構築」には一定の成果、今後は「成長への基礎構築」に注力

- ・「再構築」は、事業構造改革や運賃改定などによる収支改善策の実施、コロナ禍からの回復基調もあり一定の成果
- ・新経営体制発足後、社長決裁権限の一部をグループ長に委譲

⇒ 計画達成のカギとなる人財の確保と活性化に注力

スピード感をもった戦略打ち手の遂行を通じて、成長の基礎構築を果たす

「なんかいいね」があふれてる

Appendix

【参考】2023年度 主な取り組み(1)

日付	内容	開示資料URL
4/17	南海グループ4社でJCB/American Express/Diners Club/Discoverのタッチ決済が交通利用できるようになります！	URL
4/18	ヘルスケアアプリ「へるすまーと泉北」のポイントを“デジタルきっぷ”に交換できる実証実験を4月28日から開始	URL
4/19	南海電鉄×アウトドアショップOrange 和歌山市車庫でのキャンプを行います！	URL
4/24	本社部門で、TPOに応じた「自由度の高い、柔軟な服装」で勤務します！ ～変化に対応する柔軟な組織風土を目指して～	URL
5/10	「生きた建築ミュージアム・大阪セレクション」に「なんばパークス」が選定されました	URL
5/25	「なんばeスポーツウィーク」を5月26日から開催！ 6つの心弾む体験で、最高峰のeスポーツ大会を盛り上げます！	URL
5/30	＼運転士・車掌体験など親子で楽しめる夏休みイベント満載！／ 「親子でわくわく体験!南海沿線2023～やってみたい!を育てよう～」開催	URL
6/2	SENBOKUスマートシティコンソーシアムと近畿大学が連携し、「カレッジラボ」を開催します	URL
6/8	-2023年6月15日(木)から- 通勤車両における車内防犯カメラの運用を開始します	URL
6/13	自動運転走行試験を2023年8月頃から開始します	URL
6/15	7月3日(月)直営シェアオフィス「Lieffice 堺東」オープン！～店舗コンセプトは利用者の『深み』～	URL

【参考】2023年度 主な取り組み(2)

日付	内容	開示資料URL
6/23	「eスポーツキャンプ 2023 Summer」8月21日～24日に開催決定！	URL
6/30	「KANSAI MaaS」が日本版MaaS推進・支援事業に選定されました	URL
7/18	2023年11月1日(水)、minapitaポイントサービスがリニューアル！ 鉄道会社初！「施設・エリア限定ポイント」を新設	URL
8/1	「なんばEKIKAN」が大幅リニューアル！ 大阪初進出の“大型ライブハウス”など、個性豊かな4店舗が誕生！	URL
8/9	「beyond the Border」第2期を明日から募集開始！ 社外の“イノベーション人財”と、新たな事業の創出へ	URL
8/18	\おいしいをテーマに親子で楽しめるイベント満載！/ 「『わくわくおいしい体験！南海沿線』～やってみよう！を育てよう～」開催	URL
8/18	<国内初>南海電鉄のネットワークを利用した「社内内回り方式」によるタッチ決済を実現	URL
8/22	《日本初》エリアの垣根を超えて！ 南海電鉄と福岡市地下鉄で、大阪・福岡タッチ決済キャンペーン(20%割引)を実施します！	URL
8/24	「泉ヶ丘駅前活性化計画」の新築建設工事延期および事業計画見直しについて	URL
9/4	「パークスガーデン」過去最大規模のリニューアル！ “タッチングネイチャー”をコンセプトに“五感没入型の都心の杜”を創る	URL

【参考】2023年度 主な取り組み(3)

日付	内容	開示資料URL
9/5	KANSAI MaaSアプリのリリースについて ～国内初の鉄道事業者連携による広域型MaaSアプリが始動！～	URL
9/5	ヘルスケアアプリ「へるすまーと泉北」 全国初！歩いて貯めたポイントで「オンデマンドバス」に乗ろう！ 10月1日から実証実験を開始	URL
9/5	10月1日から泉北ニュータウン地域において、 「南海オンデマンドバス Supported by J:COM」の実証事業を実施	URL
9/15	10月21日(土)に南海線のダイヤを修正します	URL
9/21	泉北ニュータウンで子育て世代に向けたサービスを拡充 ベビーカーシェアリングサービス「ベビカル」実証実験開始！	URL
9/25	「第2回Japal交流会」を開催！\IT技術レベルは？日本語能力は？…すべての疑問を解消します／	URL
9/25	「なんばパークスミュージアム」を開業します オープニングイベントは「美少女戦士セーラームーン ミュージアム」を開催	URL
9/27	関西イノベーションネットワーク2号投資事業有限責任組合(愛称:イノベーションファンド25Next)への 出資について	URL
10/3	「南海沿線 まちの参観日」を開始！第一弾は、河内長野市と共催で、 “リアルな暮らしを知るイベント”と“転入特典の進呈”を実施！	URL
10/10	オープンファクトリーと連携したエンターテインメント型マッチングイベント「ものづくり合説」を開催します	URL

【参考】2023年度 主な取り組み(4)

日付	内容	開示資料URL
10/11	“ちょげ”から始まる次世代のエンタメクリエイターインレジデンスプログラム「Chokett」始動 なんばのエンタメを共に創るクリエイターを募集します！	URL
10/18	『パークスガーデン』リニューアル第1期エリアが11月10日オープン！ “タッチングネイチャー”を体現した「感じて・創って・育てて」楽しめる5つのイベントを開催	URL
10/18	minapitaポイントサービスがいよいよリニューアル！キャンペーンも実施！	URL
10/23	和歌山市/南海電気鉄道/事業構想大学院大学 公民共創、企業間連携を加速させる 「共創シティ・サステナブルわかやまプロジェクト研究」の発足を発表	URL
10/24	閑空に直結する世界からの玄関口・グレーターなんばに2025年春、新たな「オフィスビル」が誕生！ 10月26日に着工	URL
10/24	恵美須町駅前に“シェアスタイル型賃貸マンション”「サザンクレストなんば南」が竣工します	URL
11/1	南海プライベートリート投資法人の運用開始に向けた当社保有不動産の組入れに関するお知らせ	URL
11/8	11月23日「なんば広場」が誕生！社会実験を開始	URL
11/10	中百舌鳥駅のリニューアル工事が一部完了しました	URL
11/10	中百舌鳥駅に新たな商業エリアが誕生 「N. KLASS(エヌクラス)中百舌鳥」グランドオープン！	URL

【参考】共創140計画 数値目標

- 営業利益・純有利子負債残高/EBITDA倍率をともに改善させ、将来の成長に向けた財務基盤の整備に取り組む
- CO2排出量についても、2030年度に向けて計画的に削減を図る

計画の最終年度にあたる2024年度の数値目標(連結ベース)は以下のとおり

営業利益 ^{※1}	280億円
純有利子負債残高/EBITDA倍率 ^{※2}	7.5倍以下

※1 営業利益+受取配当金

※2 営業利益+受取配当金+減価償却費

<参考>

設備投資額(3か年総額)	1,600億円
CO2排出量削減(2024年度)	2013年度比32%減

【参考】数値計画：連結ハイライト

- 業績：2022年度実績は当初計画を上回り、2023年度予想も上方修正
- 設備投資：3か年総額1,600億円に向けて、着実に進める

	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 予想 (2023年10月公表)	2024年度 計画
営業利益 ^{※1}	129 億円	220 億円	284 億円	280 億円
純有利子負債残高	4,460 億円	4,361 億円	4,161 億円	4,339 億円
純有利子負債残高/EBITDA ^{※2} 倍率	10.7 倍	8.8 倍	7.4 倍	7.5 倍

	2021年度 実績 ^{※4}	2022年度 実績	2023年度 予想 (2023年10月公表)	共創140計画 3か年総額
設備投資総額 ^{※3}	214 億円	301 億円	491 億円	1,600 億円
未来探索	—	8 億円	61 億円	150 億円
収益拡大	62 億円	99 億円	113 億円	712 億円
安全・更新	152 億円	194 億円	317 億円	738 億円

- ※1 営業利益＋受取配当金
 ※2 営業利益＋受取配当金＋減価償却費
 ※3 連結消去前数値、出資等を含む
 ※4 2021年度実績は連結消去後数値で出資等を含まない

【参考】設備投資：3か年 1,600億円の内容

- 事業戦略骨子に沿い、適切な投資枠を確保
- 「持続的な企業価値の向上」と「持続可能な社会の実現」の両立を目指し、一定の投資額を“サステナブル投資”に振り向ける

1. 公共交通事業のサステナブルな経営

520億円：

- ・ サステナブルな交通ネットワーク維持のため、計画的な安全投資および更新投資を実施する

2. 選ばれる沿線づくりと不動産事業深化・拡大

930億円：

- ・ REITにより開発資金を確保しつつ、なんばエリアや泉ヶ丘エリア、物流施設の高度化等に集中投資する

3. 未来探索

150億円：

- ・ 鉄道と不動産に続く第3の柱構築に向けて、中長期的な目線で予算を配分する

うち サステナブル投資(※)

- ・ **災害対策投資:50億円**
激甚化する災害への備え・予防対策
 - ・ **DX推進投資:90億円**
データ・デジタル技術を駆使した、新たな価値・働き方の創出
 - ・ **CO2削減投資:190億円**
地球温暖化の緩和および脱炭素社会への移行の機会活用
 - ・ **ブランド向上投資:160億円**
商品・サービス・コーポレート・地域のブランド向上
 - ・ **多様性向上投資:40億円**
多様な従業員の働きやすさ向上
- **合計:460億円**(一部重複項目あり)

※サステナブル経営に掲げるマテリアリティ実現に向けた主な投資

‘なんかいいね’があふれてる

【参考】南海グループ経営ビジョン2027

- 「南海グループ経営ビジョン2027」の骨子は現時点でも不変、如何に深化させるか

《2027年のありたき姿》

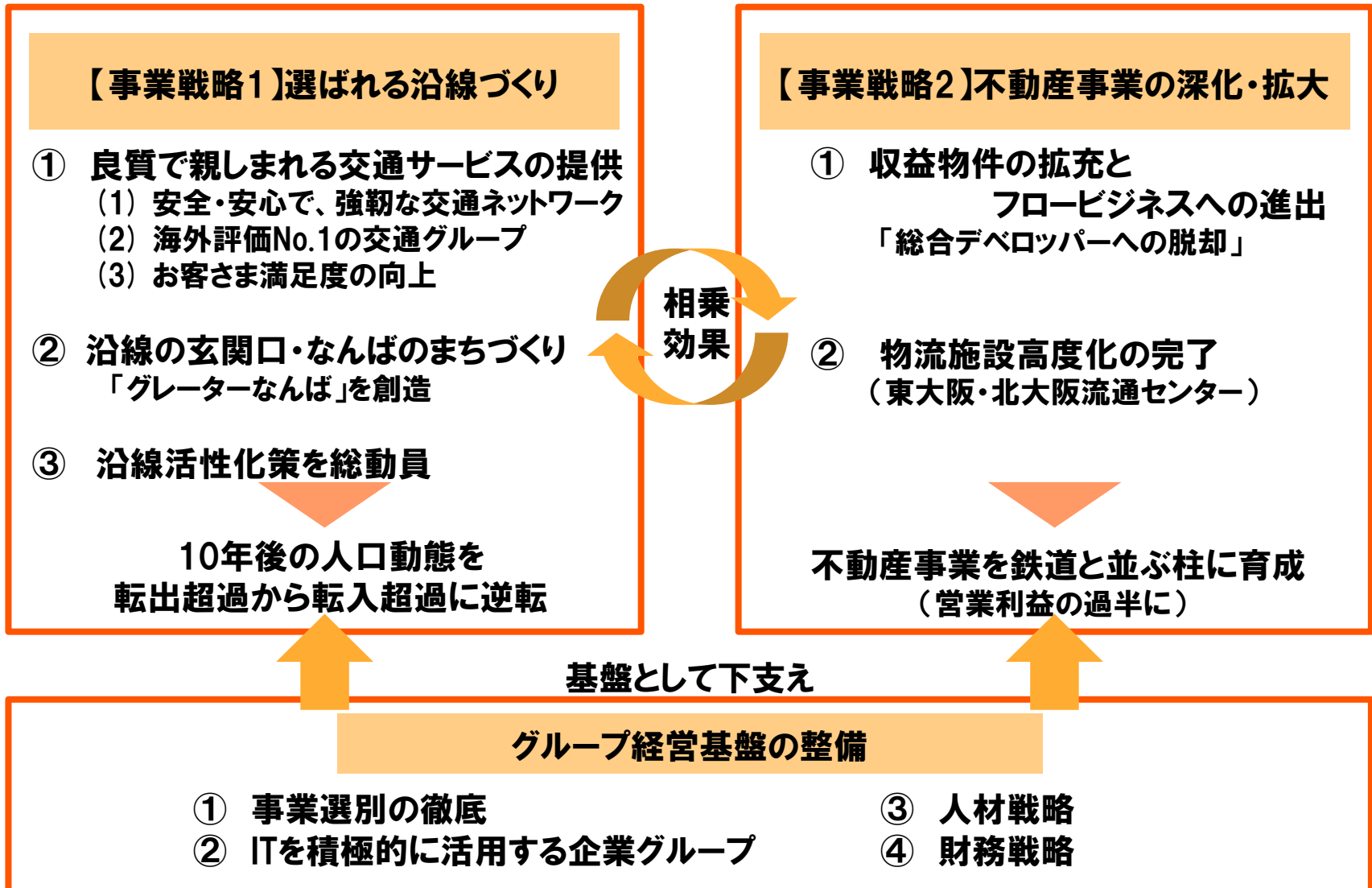
**満足と感動の提供を通じて、
選ばれる沿線、選ばれる企業グループとなる**

位置づけ

**なにわ筋線開業に向け、
沿線を磨く10年間**

- 沿線を主たる事業エリアとし、グループの総力を挙げて沿線価値向上に注力する
- 「なんば」と「インバウンド」をビジネスチャンスとして活用することで、沿線価値向上を加速させる
- アライアンスを積極活用することで、事業展開をスピードアップさせる

【参考】南海グループ経営ビジョン2027：事業戦略骨子



‘なんかいいね’があふれてる

【参考】南海が描く“2050年の企業像”

地域共生・共創 多様な暮らし方

地域の人々とともに

地域密着を旗印に、地域・沿線の人々とのつながりを大切に保ち、多種多様な人々が幸せに暮らせる多彩な“まち”を、地元と一体となって創っていく。

モビリティ

公共交通事業者としての使命

これまで沿線で培ってきた安全・安心の運輸事業の歴史とその責任を、“人と人”、“まちとまち”、そして“人とまち”をつなぐ多様なモビリティ事業への深化で具現化し、未来につなげていく。

沿線への誇りを礎に、

関西にダイバーシティ^(※)を築く

事業家集団

多様性・グローバル

“Think Globally, Act Locally”

関空という世界(アジア)とつながる玄関口、そして“なんば”という多彩なまち…、これからも世界から多様な人々が集うこの地に寄り添いながら、互いの価値観や個性を認め、高めあえる多様性を育てていく。

南海らしさ

“みらい”を自ら切り拓く強い意志

創業からの長い歴史、その道筋で築いてきた南海グループの文化とアイデンティティ、そしてこの先の新たなロードマップ。私たちは、社会の一員としての使命と責任を胸に、新しいことに“挑戦し”、“やりきる”事業家集団となり、南海の“みらい”を切り拓いていく。

(※) **ダイバーシティ:**

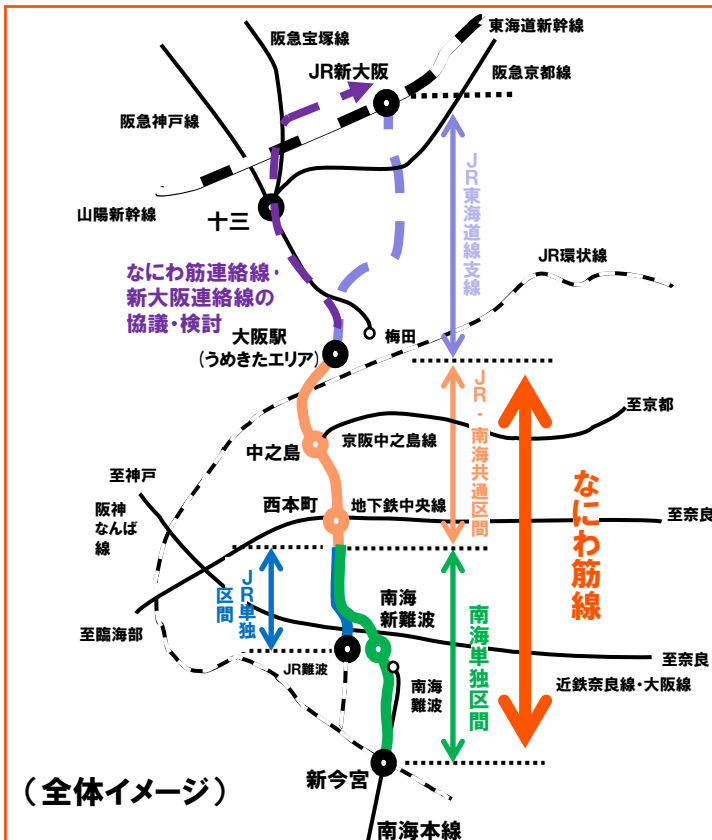
「多様性」に代表される“Diversity”と、「多様性あふれる街」を意味する“Diverse City”=“DiverCity”(造語)の2つの想いを表現している

‘なんかいね’があふれてる

【参考】なにわ筋線計画について

● なにわ筋線

- ・ 2019年7月に鉄道事業許可の交付、2020年2月に工事施行認可の取得、都市計画決定の告示
- ・ 2021年度下期以降、中之島駅部、西本町駅部では本格的な工事に着手、南海新難波分岐トンネル部・駅部では開削工事に向けた準備工事を推進中
- ・ 引き続き用地買収を進めるとともに、その他区間の工事にも着手し、2031年春の開業を目指す



なにわ筋線計画概要

整備区間	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪駅(うめきたエリア)～(仮称)西本町駅～南海新今宮駅 ・大阪駅(うめきたエリア)～(仮称)西本町駅～JR難波駅
中間駅	(仮称)中之島駅、(仮称)西本町駅、(仮称)南海新難波駅
総事業費	約3,300億円(概算) うち 地方自治体出資 約330億円 (大阪府165億円、大阪市165億円) 民間出資 約330億円 (南海電鉄185億円、JR西日本145億円)
整備主体	関西高速鉄道株式会社
営業主体及び営業区間	南海電気鉄道株式会社 営業区間:大阪駅(うめきたエリア)～南海新今宮駅 西日本旅客鉄道株式会社(JR西日本) 営業区間:大阪駅(うめきたエリア)～JR難波駅
開業目標	2031年春

※「大阪駅(うめきたエリア)」は、東海道支線地下化・新駅設置事業において、2023年3月に開業

(参考)

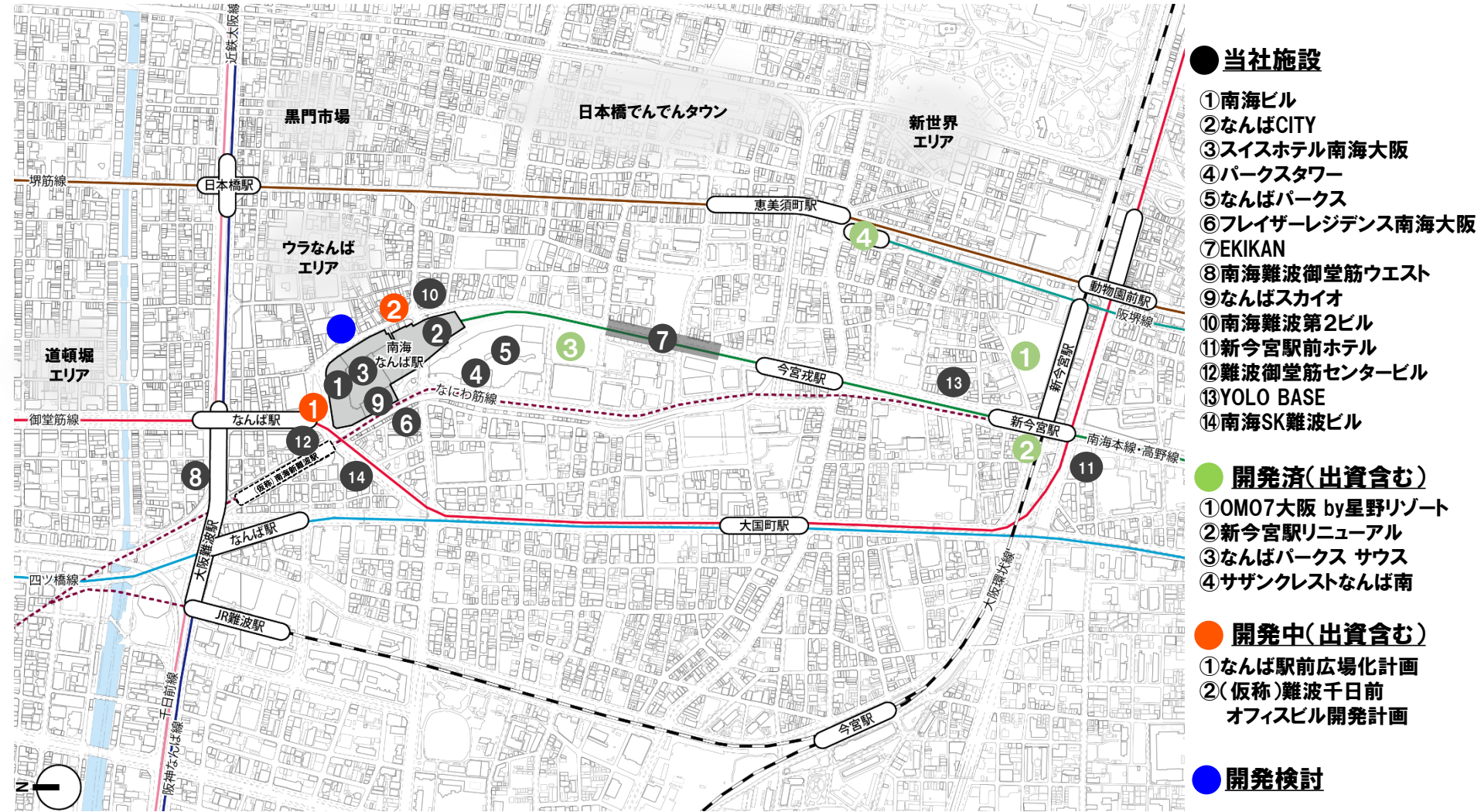
- ・ なにわ筋連絡線・新大阪連絡線は、2017年度の国による調査が行われ、良好な結果が得られた
- ・ 調査結果を踏まえて、早期事業化を目指し、関係者での協議・検討を進める

【参考】沿線マップ



‘なんかいね’があふれてる

グレーターなんばエリア 主な当社施設(MAP)



※なにわ筋線:現在整備中の路線

‘なんかいいいね’があふれる

【参考】グレーターなんばエリア 主な当社施設(一覧表)

施設名	賃貸面積	竣工年月(取得年月)	主な用途
①南海ビル	49,827㎡	1932年7月	高島屋大阪店、店舗
②なんばCITY	約33,200㎡	1978年※2	商業施設
③スイスホテル南海大阪	61,557㎡	1990年3月	ホテル
④パークスタワー	36,500㎡	2003年8月	オフィス、店舗
⑤なんばパークス	約51,800㎡	2003年10月※2	商業施設
⑥フレイザーレジデンス南海大阪	7,332㎡※1	2010年7月	サービスアパートメント
⑦EKIKAN	約3,700㎡	2014年※2	商業施設
⑧南海難波御堂筋ウエスト	4,286㎡	1985年9月(2018年7月)	オフィス
⑨なんばスカイオ	45,927㎡	2018年10月	オフィス、医療施設、ホール・カンファレンス、商業サービス施設
⑩南海難波第2ビル	1,500㎡※1	1988年11月(2018年11月)	オフィス
⑪新今宮駅前ホテル	4,952㎡※1	2018年8月(2018年12月)	ホテル
⑫難波御堂筋センタービル	(当社保有分) 5,665㎡ (全体) 6,217㎡	1992年3月(2019年4月)	オフィス、店舗
⑬YOLO BASE	3,156㎡※1	2019年9月	コワーキングスペース、学生寮
⑭南海SK難波ビル	14,141㎡	1983年3月(2020年2月)	オフィス

※1 延床面積

※2 第1期オープン

(2023年11月17日現在)

<IRのお問い合わせ先>

**南海電気鉄道株式会社
財務戦略グループ サステナビリティ推進部(IR担当)**

TEL :06-6644-7105

E-mail:nankai_ir@nankai.co.jp

<https://www.nankai.co.jp/>

「見通し」に関する注意事項

本資料は投資勧誘を目的とした資料ではありません。あくまでも参考資料であり、正確な決算数値等は決算短信・有価証券報告書等をご参照ください。

本資料で記述しております業績予想及び将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、需要動向などの業況の変化、物価変動等、多分に不確定要素を含んでおります。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により業績予想と乖離する場合がありますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。